

# 族譜を通じてみた家族像—香港新界沙田 W 氏一族における「家（チア）」単位の形態変化

瀬川 昌久\*

Image of the Family looked through a Written Genealogy : Changes in the Shape of Jia unit in “W” Lineage of Sha Tin, the New Territories of Hong Kong

SEGAWA Masahisa

## 要旨

本論文は、香港新界のある宗族が明代中期から清代後期にかけて記録し続けた族譜を分析材料とし、特にその系譜記録に関する族譜本体部分を詳細に分析することを通じて、そこからこの宗族の成員たちが所属していた「家族」のかたちについて、どの程度まで具体的に把握できるかに挑んだ歴史人類学的な考察である。従来の族譜研究は、序文に記された倫理観や歴史意識の研究、あるいは系譜を用いた著名人の出自の探索などに中心が置かれ、族譜の本体部分である一般宗族成員の生没記録それ自体への詳細な分析が行われることは希であった。筆者は別稿「連続性への希求—香港新界沙田 W 氏族譜の内容分析を通してみる系譜意識」(『東北アジア研究』23号、1-40頁)において、族譜の記載内容の具体的で詳細な分析を試み、族譜を記録し続けた人々の価値意識を解明する試みを行った。本研究はその成果を受けて、族譜記録を手がかりに前近代中国の「家族」のありかたとその経年的変化について理解することを目指すものである。

キーワード : 族譜、宗族、家族形態、傍系型大家族、経年変化

## 目次

1. はじめに
2. W 氏一族全体における家族形態の経年変化の全体像
  - 2.1. 家族形態変化についての基本的考え方
  - 2.2. W 氏一族における傍系型大家族の存在比
3. 個別家系の家族形態変化に関する事例分析
  - 3.1. 事例 1 : 第 10 世・元魁の家系
  - 3.2. 事例 2 : 第 12 世・明瑞の家系
  - 3.3. 事例 3 : 第 11 世・超大の家系
  - 3.4. 事例 4 : 第 12 世・応芳の家系

---

\*東北大学東北アジア研究センター

3.5. 事例 5：第 12 世・文錦の家系

4. 家族概念とその諸形態をめぐる考察

5. おわりに

付録

〔資料 1〕 W 氏一族の 1490～1830 年の各形態の家族単位の例数

〔資料 2〕 W 氏一族の 1490～1830 年の家族単位の形態比率

〔資料 3〕 W 氏一族の 1490～1830 年の各形態の家族単위에属していた者の人数

〔資料 4〕 W 氏一族の 1490～1830 年の各家族形態に属していた者の人数比率

〔資料 5〕 未婚女子の推定数を加えた W 氏一族の年次別人口

## 1. はじめに

本稿は、筆者が別稿「連続性への希求—香港新界沙田 W 氏族譜の内容分析を通してみる系譜意識」(『東北アジア研究』23 号、1-40 頁、[瀬川 2019])において行った研究を踏まえ、族譜という資料媒体を通じて、過去の家族・親族の状況がどの程度まで具体的に把握できるかについて行う一つの挑戦的な試みである。すなわち、前稿に引き続いて香港新界沙田 W 氏族譜を資料とし、前近代 15 世紀末から 19 世紀前半に至る三百数十年間の当該一族の人々が生きた人生の痕跡を、できるだけ詳細に再現してみることを試みる。

本稿において分析対象とする香港新界沙田 W 氏族譜は、香港新界中部・沙田近郊にある D 村、T 村、K 村等の集落に居住していた W 氏一族の族譜であり、表題は『W 氏總族譜』と銘打たれている。この族譜は、東京大学東洋文化研究所に「沙田文献」として所蔵されているが、同じ「沙田文献」所収の族譜の中でも、特にそこに収録された宗族成員の生没年等の記録が充実していることから、今回の分析対象として選んだものである。

もとより、族譜の記録それ自体は日常の生活の様子を後世に伝えることを目的としてなされているわけではないので、そのような「家族」の再構成の手がかりとして用いるには自ずと限界がある。族譜がもっぱら記録しようとしてきたのは、男性成員間の父系出自関係、生没年、妻の姓、息子の数、墓の位置など限られた情報のみであって、その余のことについてはほとんど言及がない。ただし、そのような限られた情報項目ではあっても、分析の方法を工夫することにより、そこから当時の人々が所属していた家族のあり方についてはかなり具体的で詳細な手がかりを得ることができる。本稿においては、その中でも特に家族形態の経年変化に着目し、対象となる族譜に記録された人々が、その生前にどのような家族関係の中で生きていたのかを、族譜本体部分の記録から具体的に抽出することを試みるものである。

## 2. W 氏一族全体における家族形態の経年変化の全体像

### 2.1. 家族形態変化についての基本的考え方

香港新界沙田 W 氏一族の人々が、1490 年から 1830 年に及ぶ 340 年の間にどのような家族単位の中で暮らしていたかについて推測するため、筆者は別稿[瀬川 2019]において彼らの族譜を用いた分析を行った。その結果からは、中国における前近代的大家族、すなわち親世代のもとに複数組の息子夫婦が従属するかたちで構成される傍系型拡大家族は、やはり統計的には少数に限られることが明らかとなった。彼ら W 氏一族の成員たちがたどった実際の人口動態に即してみる限り、親の生存期間や息子の数、世代間隔といった構造的要因に由来する制約ゆえに、彼らが父系傍系型の拡大家族を実現し得た割合は全般的に低いものであったと考えられる。全期間を通した平均で見れば、それは 12.7 パーセントほどであり、すなわち 10 家族のうちにそのような拡大家族は 1 家族程度の比率であったことがわかった(本稿末尾添付の[資料 2]参照のこと)。

もちろん、族譜はそこに記録された人々の実際の居住形態、例えば誰と誰が同居しており誰と誰が家計をともしていたか、などを一切伝えていない。したがって、ここで言うところの「傍系型拡大家族」や「基本家族」等の家族形態は、世帯としての生活集団を形成している単位を指しているのではなく、あくまで親子、兄弟、夫婦関係で結ばれた近親カテゴリーとしての「家族」である。共住や家計の共同などの機能面を伴った単位として「傍系型拡大家族」を定義するのであれば、ここで示している数字は理論上のその最大値ということになる。実際には父が存命中に息子たちが既婚状態であっても、その全てのカップルが同居単位を形成していたとは限らない。このように、族譜から取り出し得る近親カテゴリーとしての「家族」と、従来の社会科学的家族研究の中で考察されてきた「家族」との関係については、本稿第 4 節においてあらためて考察する。

では、族譜から得られる存在率の数値から、そのような父系傍系型拡大家族の形態は、人々が希にしか実践することがないという意味で彼らにとっては疎遠な家族形態であったと考えてよいであろうか。この点で 1 つ重要な示唆を与えてくれるのは、かつて台湾南部の農村において、日本統治時代の住民登録資料を用いながら、家族形態について考察を行った M・コーエン(Myron Cohen)の指摘であろう。コーエンは、日本統治時代以来 1960 年代に至る彼の調査地の村において、統計上数的に優越した家族形態が基本家族であり、さらにまた各時点の統計値の比較をもとにする限り、拡大家族から基本家族へという家族形態の変化も一見顕著であるように見えることを示している。

ただし、家族の形態はその成員の誕生や結婚、死去といった家族サイクルの展開に応じて常に変化し続ける性格のものであり、傍系型拡大家族が解体して直系型拡大家族や基本家族へと遷移することは、そうした家族サイクルの常態として常に生じることでありとコーエンは述べている。そこで、任意の一時点における対象社会集団全体の家族形態の数的趨勢を論じるのではなく、特定の個人ないしは特定の家系に着目してその経年変化を連続的に追う作業を行ってみると、明らかに異なる趨勢が読みとれることを指摘している。すなわち、時点ごとに社会横断的に捉えた家

族形態の比率分析から得られる結論とはうらはらに、例え短期間であろうとも人生サイクルのどこかの時点で傍系型大家族の構成員となった経験をもつ者が依然として少なくなかったとの指摘である〔Cohen 1976: 69、瀬川 2004: 103〕(注 1)。

このことにヒントを得ながら、W 氏一族の家族形態についても、それぞれの年次ごとに各形態の比率を計算してみるだけではなく、特定の個人ごと家系ごとに、その人生サイクルの経過の中でどのような家族形態を経験していたかを検討して見ることにしたい。

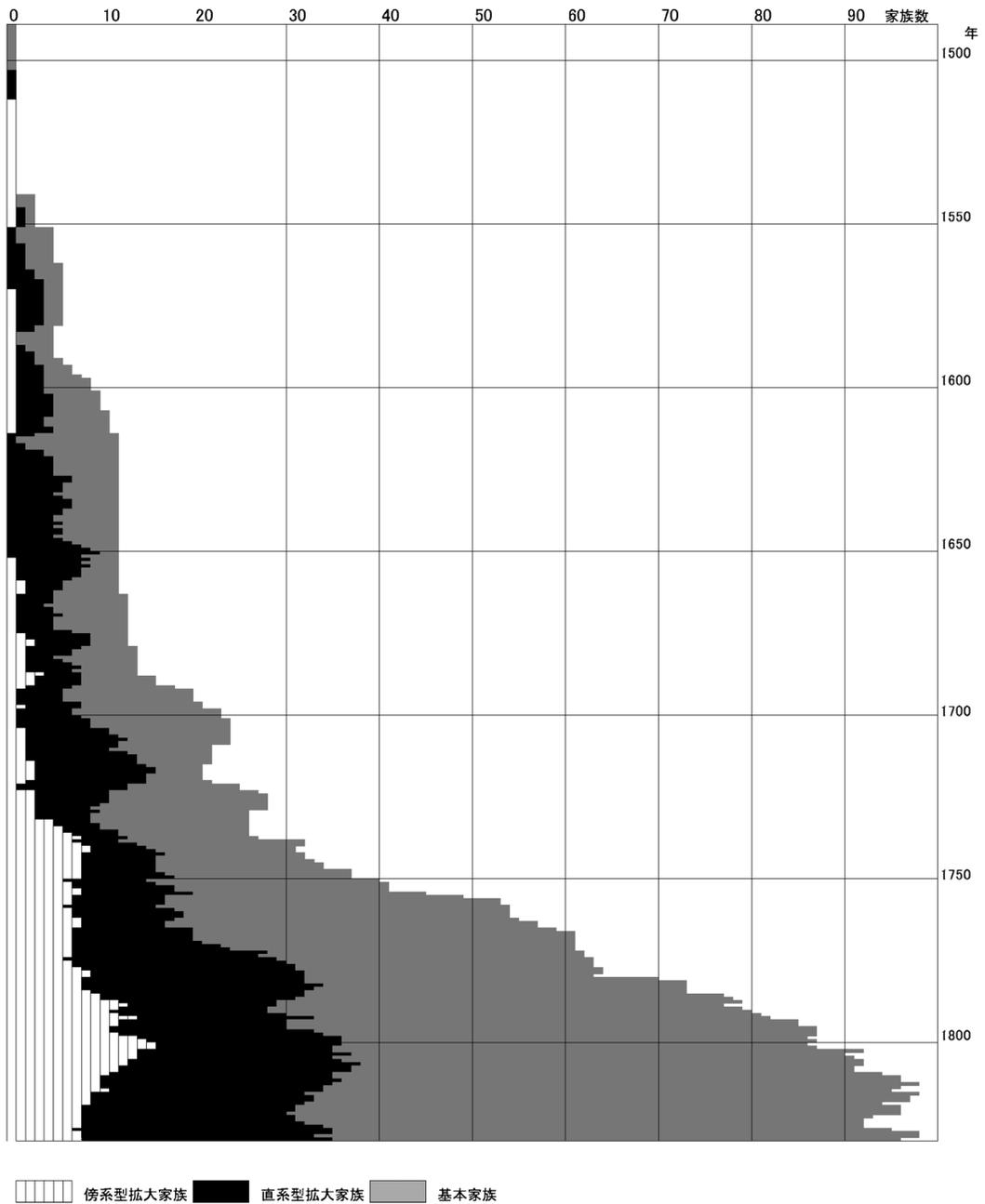
## 2.2. W 氏一族における傍系型大家族の存在比

本稿の巻末に添付した〔資料 1〕は、当該一族の人々が明代後半から清代後期に至る三百数十年間の各年次に形成していた家族単位の形態比率である。そこでは、前述の通り拡大型傍系家族は期間全体を通して概ね十パーセント程度かそれ以下の低い割合になっている(年次ごとの各家族形態の割合は〔資料 2〕に示す)。もっとも、拡大家族、特に傍系型の拡大家族はそこに含まれる家族成員数が基本家族と比較して一般的に多いから、家族数の割合そのものがそこに含まれる(その家族形態に所属する)人々の数の比率になるわけではない。そこで、各年次に各家族形態に属していた人の数の割合を集計してみると、〔資料 3〕のとおりとなる。また、それらを各年次における一族全体の人口で割った比率を求めると、〔資料 4〕のとおりとなる。また、それをグラフとして示したものが、〔図 1〕である。

なお、族譜資料のもつ性格から、それらの家族のもとで出生したであろう女子成員については一切言及がない。それら女子のうち、未婚者は親元の家族内にとどまっていたと考えられるから、彼らをも副次的な構成員として加えるとすれば、彼らの家族単位の構成員数はこれら〔資料 3〕の数字よりは大きくなるであろう。これら未婚女子成員の数がどの程度に上ったかについては、全くの推測による外はないが、推測の方法としては、各時点での男子成員の分類、(A)上位世代が全て死去している者、(B)上位世代が存命中かつ自身が既婚である者、(C)上位世代が存命中かつ自身が未婚の者のうち、(C)の人数とほぼ同等の人数であったと考えられる。参考までにその数字を計算して算入すると、〔資料 5〕が得られる(注 2)。

既に別稿〔瀬川 2019〕でも言及したように、W 氏一族の始祖・建元夫婦が沙田地区に入植し、4 人の息子(うち次男は早世)を育てながらその後数百年にわたり拡大・発展してゆく宗族の礎を築きつつあった 15 世紀末から 1540 年代初頭までの最初の数十年間は、家族サイクルの発展局面であった。彼らの家族は、夫婦と子どもたちだけからなる基本家族から、やがて長男の結婚、三男四男の結婚を経て直系型拡大家族、傍系型拡大家族へと推移していった。当時は、始祖の家族 1 家族のみしか存在しないから、その唯一の家族単位が基本→直系→傍系と形態を変えてゆくごとに、各時点における家族形態の比率としてはそれらの形態が 100 パーセントを占めることになる。その結果、二人目の息子が結婚した 1502 年から始祖夫婦がそろってこの世を去った 1541 年までの 39 年間の長きにわたって、彼ら一族は単一の傍系型拡大家族として存在していたことになる。

その後は息子世代の結婚、親世代の死去にともなって家族形態は拡大・分裂を繰り返し、多数



(図1) 各年次の家族形態比率

の家族単位を形成するようになる。家族数のピークは1813年、1816年、1828～1829年に記録した98家族(「家(チア)」単位)である([資料1])。1813年時点での各種家族形態の比率は、基本家族63(64.3パーセント)、直系型大家族25(25.5パーセント)、傍系型大家族10(10.2パーセン

ト)となっている([資料2])。また、宗族全体の人口も1800年には300人規模に達し、2018年には最大値の330人に達するが、同年の時点におけるそれぞれの家族形態に含まれる総人数の比率は、基本家族147人(44.5パーセント)、直系型大家族107人(32.4パーセント)、傍系型大家族76人(23.0パーセント)となっている([資料3]、[資料4])。

前述のとおり、大家族、特に傍系型大家族はそこに含まれる家族員数が基本家族と比較して一般的に多い傾向となるから、各家族形態の家族数の比率で見て傍系型大家族の比率が少

なくとも、そこに含まれる総人数の比率で見ると、そこそこに大きいことがわかる。集計対象期間である1490年から1830年までの間を通しての比率を求めれば、それぞれの形態に含まれる家族数で見た場合、傍系型大家族の比率は12.3パーセントだが、それをそれぞれの形態に含まれる総人数の比率で見れば、27.6パーセントとなる

(表1) 1490~1830年の各家族形態の比率

	家族数		家族数	
	のべ家族数	比率	のべ人数	比率
基本家族	5357	58.9%	13822	37.5%
直系家族	2620	28.8%	12861	34.9%
傍系家族	1115	12.3%	10192	27.6%
合計	9092	100.0%	36875	100.0%

([表1]参照)。

したがって、単純に考えれば、全期間を通して、4分の1以上の人々は傍系型大家族の形態の家族関係を経験していたことになる。もちろん、繰り返しになるが、ここで言う「傍系型大家族」は実生活上の共住や家系の共同という意味での生活単位を構成していたかどうかにかかわらず、親族・婚姻関係の結びつきのみに基づく近親カテゴリーとしての家族単位、すなわち「家(チア)」として人々が観念する単位を指している。

しかし、[図1]に見るとおり、各家族形態の比率は家族サイクルの進展にもなって変動が大きい。したがって、単一または少数の時点での数値をもって全体の傾向を推測することが必ずしも適切でないことがここからは明らかである。例えば、1570年時点ではW氏一族が構成していた全6家族のうち、基本家族の家族数は2、直系型大家族は4、傍系型大家族は0となっている。そこから1620年、1670年、1720年、1770年、1820年と50年間隔でそれらの値を見て行くと、傍系型大家族の比率はそれぞれ0.0パーセント、7.7パーセント、14.3パーセント、11.5パーセント、8.3パーセントと推移する。いずれも15パーセントを超えない低い値である。これらを、家族数ではなく傍系型大家族の形態に含まれる総人数の比率で見ると、それぞれ0.0パーセント、0.0パーセント、15.1パーセント、25.2パーセント、34.5パーセント、20.1パーセントとなる([表2])。総人数の比率で見ても、傍系型大家族に属していた者の人数は各時点とも3人に

(表2) 1570年から50年間隔の傍系家族の比率

	1570年	1620年	1670年	1720年	1770年	1820年
家族数比率	0.0	0.0	7.7	14.3	11.5	8.3
含まれる人数比率	0.0	0.0	15.1	25.2	34.5	20.1

1 人の割合を大きく超えることはない。

しかしながら、同じ数字を 1550 年、1600 年、1650 年、1700 年、1750 年 1800 年の 50 年間隔で示してみると、[表 3]のとおりとなり、家族数の比率では 33.3 パーセント、11.1 パーセント、0.0 パーセント、4.3 パーセント、21.6 パーセント、17.2 パーセント、また総人数の比率では 61.1 パーセント、25.0 パーセント、0.0 パーセント、9.8 パーセント、52.3 パーセント、37.0 パーセントとなる。すなわち、傍系型拡大家族が家族数の比率では当該時点に存在した全家族の 3 割超、総人数の比率では当該時点の宗族人口の過半数を占めている場合も含まれている。したがって、家族形態の割合分布に関しては、経年的に細かくみていくことが重要であることがわかる。

(表 3) 1550 年から 50 年間隔の傍系家族の比率

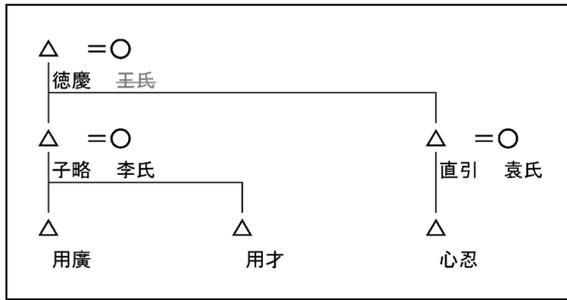
	1550 年	1600 年	1650 年	1700 年	1750 年	1800 年
家族数比率	33.3	11.1	0.0	4.2	19.5	15.4
含まれる人数比率	61.1	25.0	0.0	10.7	48.3	35.4

### 3. 個別家系の家族形態変化に関する事例分析

#### 3.1. 事例 1：第 10 世・元魁の家系

前節での分析のとおり、家族形態は個別家族の成員の出生、婚姻、死去などによって随時変化し、それとともに宗族全体における各家族形態の割合も大きく増減していることが明らかとなった。そこで次には、族譜の中から特定人物の家系を抽出し、その通時的な家族構成の変化について、経時的に再構成してみたい。ここで抽出するのは、1760 年生まれの第 10 世代・元魁、1793 年生まれの第 12 世代・明瑞、1836 年生まれの第 11 世代・超大、1814 年生まれの第 12 世代・応芳、そして 1812 年生まれの第 12 世代・文錦ら 5 名の人物のそれぞれの直系祖先からなる家系である。なお、族譜から再構成できる過去の「家族」の形態は、前述したとおり生活単位としての家族ではない。族譜は、誰と誰が同居していたかや、誰と誰が生計や家産を共同にしていたかなどの機能面の情報を一切含んでいない。ここで再構成できるのは、父系出自の系譜関係ならびに婚姻関係によって結ばれた「家(チア)」としての家族の構成である(この含意における「家(チア)」ならびに「家族」という概念に関しては、[陳其南 2006: 137]を参照のこと)。

まず、第 10 世・元魁という人物の家系から見よう。彼の家系は、始祖・建元の四男である徳慶の分節に属し、さらにこの徳慶の分節の中では、徳慶の次男の第 3 世・直引の系統に属している。第 3 世・直引は父・徳慶、母・王氏の間に 1552 年に誕生し、3 歳年上の兄・子略とともに父を家長とする基本家族の中で育った。1568 年前には母・王氏が 57 歳で死去したが、その前後には兄が結婚して家族は直系型拡大家族になった。さらに、ほどなく 1571 年ころには直引自身も妻・袁氏と結婚したので、家族形態は父・徳慶、兄夫婦、直引夫婦からなる傍系型拡大家族へと移行した。兄夫婦には 1572 年と 1575 年に男児が生まれ、やがて 1582 年には直引自身にも長男として第 4 世・心忍が誕生した。心忍が生まれた万暦 10 年壬午歳 10 月 6 日申時(西暦 1582 年



〔図2-1〕 万曆10年壬午歲10月6日申時(西曆1582年10月31日16時)の時点での第10世・元魁の家族構成

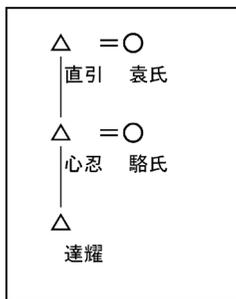
10月31日16時)の時点での彼らの家族構成を図示すれば、〔図2-1〕のとおりとなる。

ちなみに、W氏一族の族譜には大半の男子成員ならびにその妻の生年月日と出生時間が記録されていることにより、このように息子の出生の時点をもピンポイントで特定することができる。このように出生年月日・時間について詳細な記録が残されている理由は、結婚の際に相手との相性を判断するためにいわゆる「八字」、つまり出生年・月・

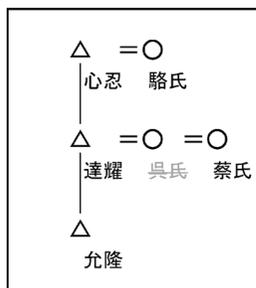
日・時の干支による表記が重視されたことによるものと考えられる。

やがて、1596年に徳慶が死去すると、直引と兄・子略とは別々の家族単位へと分裂し、それぞれ基本家族の形態となった。その後、心忍は1603年ころには5歳年下の駱姓の女性と結婚し、直引の家族は直系型大家族へと移行した。心忍夫妻は、結婚後5年ほど経過した1608年には男子・達耀に恵まれ、直引を家長とする家族単位は彼の孫を含む3世代の直系型大家族になった。第5世・達耀が誕生した万曆36年戊申歲6月10日申時(西曆1608年7月21日16時)の時点での彼らの家族構成は〔図2-2〕に示すとおりである。

しかし、孫の誕生から6年後の1614年には直引夫妻が相次いでこの世を去り、家族形態は心忍を家長とする基本家族へと変化した。その後、彼らの家族形態に次の変化をもたらされたのは、1628年ころになされた達耀の結婚であった。達耀の最初の妻は呉姓の女性であり、彼らの結婚によって家族形態は再び直系型大家族となった。ただし、呉氏とは後に死別または離別したらしく、達耀は二人目の妻・蔡氏を迎えている。これら二名の妻との婚姻の持続期間ならびに彼女らの死去時期は族譜の記載からは欠落している。いずれにしても、達耀が34歳の1642年には息子・允隆(第6世)が生まれている。この時点で彼らの家族形態は心忍夫妻、達耀夫妻、孫の允隆から



〔図2-2〕 万曆36年戊申歲6月10日申時(西曆1608年7月21日16時)の時点での第5世・達耀の家族構成

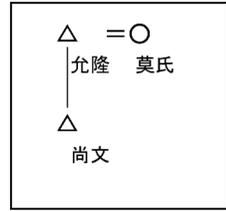


〔図2-3〕 崇禎15年壬午歲9月20日午時(西曆1642年10月13日12時)における允隆の家族構成

なる3世代の直系型大家族となった。允隆の誕生時点である崇禎15年壬午歲9月20日午時(西曆1642年10月13日12時)における当該家族の構成は〔図2-3〕のとおりとなる。

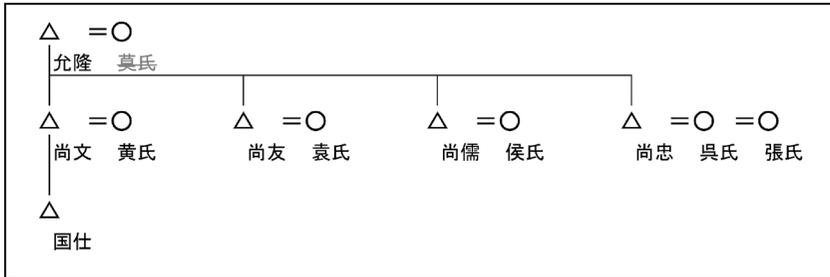
允隆の誕生から3年後の1645年には心忍、また1651年にはその妻・駱氏が死去すると、家族の形態は達耀夫妻と息子の允隆からなる基本家族へと戻った。また、1653年には達耀が48歳で死去したので、その後1662年頃に允隆が結婚するまでの間は、寡婦となった達耀の妻・蔡氏と息子・允隆との母子のみからなる基本家

族であったと推測される。允隆の妻・莫氏は允隆より4歳年下の1646年生まれであり、彼らの間には1671年に長男・尚文が、また1681年には次男の尚友が、そして1684年には三男・尚儒が生まれた。長男である第7世・尚文が誕生した康熙10年辛亥歳2月5日子時(西暦1671年3月15日午前0時)の時点の家族構成は[図2-4]のようになる(注3)。



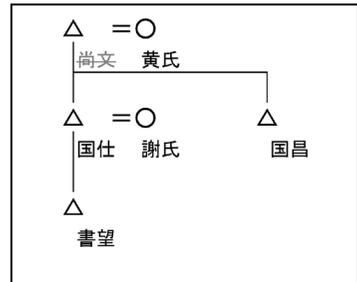
(図2-4) 康熙10年辛亥歳2月5日子時(西暦1671年3月15日午前0時)の時点の第7世・尚文の家族構成

允隆の3名の息子たち・尚文、尚友、尚儒はそれぞれ1697年、1698年、1709年前後には結婚したと思われる。彼らの妻はそれぞれ黄氏、袁氏、侯氏であった。これにより家族形態は直系型拡大家族、そして傍系型拡大家族へと推移した。1714年には允隆の妻が68歳でこの世を去ったが、1716年には尚文夫妻の長男・国仕、1721年には次男・国昌ら第8世が誕生している。また尚友夫妻にも1718年に長男・国侯、1721年に次男・国聘、1726年には三男の国錫、1729年に四男の国望、1735年に五男の国英が生まれた。さらに尚儒夫妻にも1718年、1722年、1729年に息子が生まれている。このように第8世代は多子となった。允隆が1721年に79歳で死去するまでの間には、5人の男孫に恵まれたことになる。このうち、初孫である国仕の誕生時点である康熙55年丙申歳7月8日未時(西暦1716年8月24日14時)における彼らの家族の成員は[図2-5]に示すとおりである。



(図2-5) 康熙55年丙申歳7月8日未時(西暦1716年8月24日14時)の国仕の家族

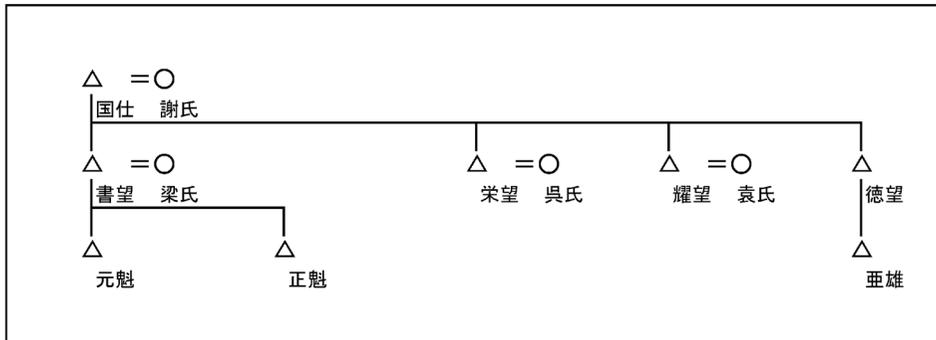
1721年の允隆の死去により、彼を頂点とする傍系型拡大家族形態の「家(チア)」単位は解体し、尚文、尚友を頂点とする2つの基本家族が生じた。そのうちの尚文の家族に次の構造変化がもたらされたのは1732年であり、この年に国仕が同い年の女性・謝氏と結婚するとともに、同年中に尚文が61歳で死去した。この結果、彼らの家族は尚文の寡婦・黄氏と、国仕夫妻からなる2世代型の直系型拡大家族となった。さらにその4年後、1736年には国仕夫妻に息子の書望(第9世)が誕生した。乾隆元年丙辰歳8月15日午時(西暦1736年9月19日正午)の書望誕生時点における家族構成は[図2-6]のとおりとなる。



(図2-6) 乾隆元年丙辰歳8月15日午時(西暦1736年9月19日正午)の書望の家族構成

国仕夫妻は子どもに恵まれ、1739年には次男・栄望、1744年には三男・耀望、1757年には四男・徳望が生まれた。また、この間の1753年には長男の書望が梁氏と結婚したので、家族形態は直系型大家族となった。四男・徳望の誕生した1757年当時には、国仕夫妻は41歳となっていたが、前年に母・黄氏が死去したので、この時点での彼らの家族形態は国仕夫妻と長男・書望夫妻、未婚の次男、三男、四男たちからなる直系型大家族へと推移していた。

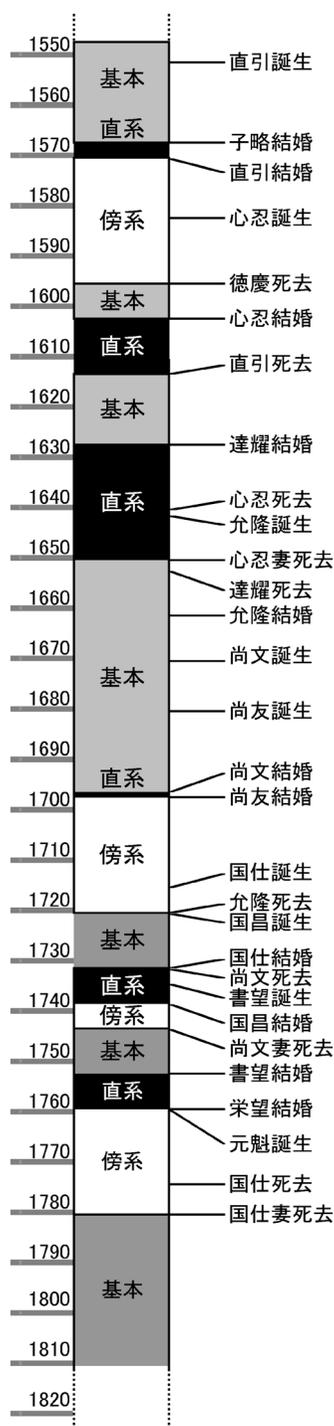
国仕は1775年に59歳で世を去るが、それまでの間に次男・栄望、三男・耀望が結婚し、その家族形態は傍系型大家族となっていた。また、長男の書望には1760年に長男として第10世・元魁が誕生したので、この時点で家族構成は第8世の国仕夫妻を頂点に、第9世である長男の書望夫妻とその息子の元魁、次男・栄望夫妻、三男・耀望、四男・徳望らからなることとなった。また、3年後の1763年には元魁の弟・正魁も生まれている。これにより、国仕が亡くなる直前の1775年の時点での家族構成を図示すると、[図2-7]のとおりとなる。その後は、1775年に国仕が、また1781年に国仕の妻・謝氏が死亡したことにより、書望ら4兄弟の「房(ファン)」は独立し、それぞれ基本家族の家族形態となった。さらに、1790年、1791年に相次いで書望とその妻・梁氏が死去したが、元魁の妻についての記載は族譜中にかけているので、この時点までに彼が結婚していたか、あるいは単身であったかは不明である。



(図2-7) 1775年の時点での元魁の家族構成

以上、第3世・直引から第10世・元魁に至る一家系の8世代、約260年間にわたる家族形態の変遷を再現してみた。[図2-1]から[図2-7]が、当該家系の系譜のどの時期に対応するかを、[図3]に簡便に整理しておく。この間に、この家系の人々の上に生じた人口動態上の主要イベントを表にまとめると、[表4]のようになる。表中の右欄に示した「\*」印は、それらのイベントの中でも特に家族形態の変化にかかわる事項を示すものである。また、左端の年号のうち、斜体の結婚年については族譜中に明記が無く、妻および夫の年齢からの推測によるものである。





(図4) 直引一元魁の家系の家族形態の変遷

以上の経年分析に基づき、これらの期間の家族形態の変遷を図として整理してみると、[図4]が得られる。1552年の直引の誕生時に基本家族の形態で出発した彼らの家系は、その後彼ら兄弟の結婚により直系型拡大家族、傍系型拡大家族へと成長するが、上位世代の死去によって「家(チア)」単位は解体し、基本家族へともどった。そして下位世代の誕生、結婚、上位世代の死去によるそのサイクルを繰り返すが、第5世・心忍、第6世・達耀、第7世・允隆が3世代続いて一人兄弟であったために、この間には傍系型拡大家族は形成されていない。第8世・国仕以降の世代では男子に恵まれたため、基本家族 → 直系型拡大家族 → 傍系型拡大家族 → 基本家族というサイクルが繰り返されている。260年間のトータルでみると、[表5]に示すとおり、この家系の人々が基本家族の形態の「家(チア)」単位に所属していた期間は134年間、直系型拡大家族に属していた期間は51年間、傍系型拡大家族に属していた期間は75年間ということになる。期間のほぼ半分は基本家族の形態であったが、傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位が存在していた期間も3割近くになることがわかる。

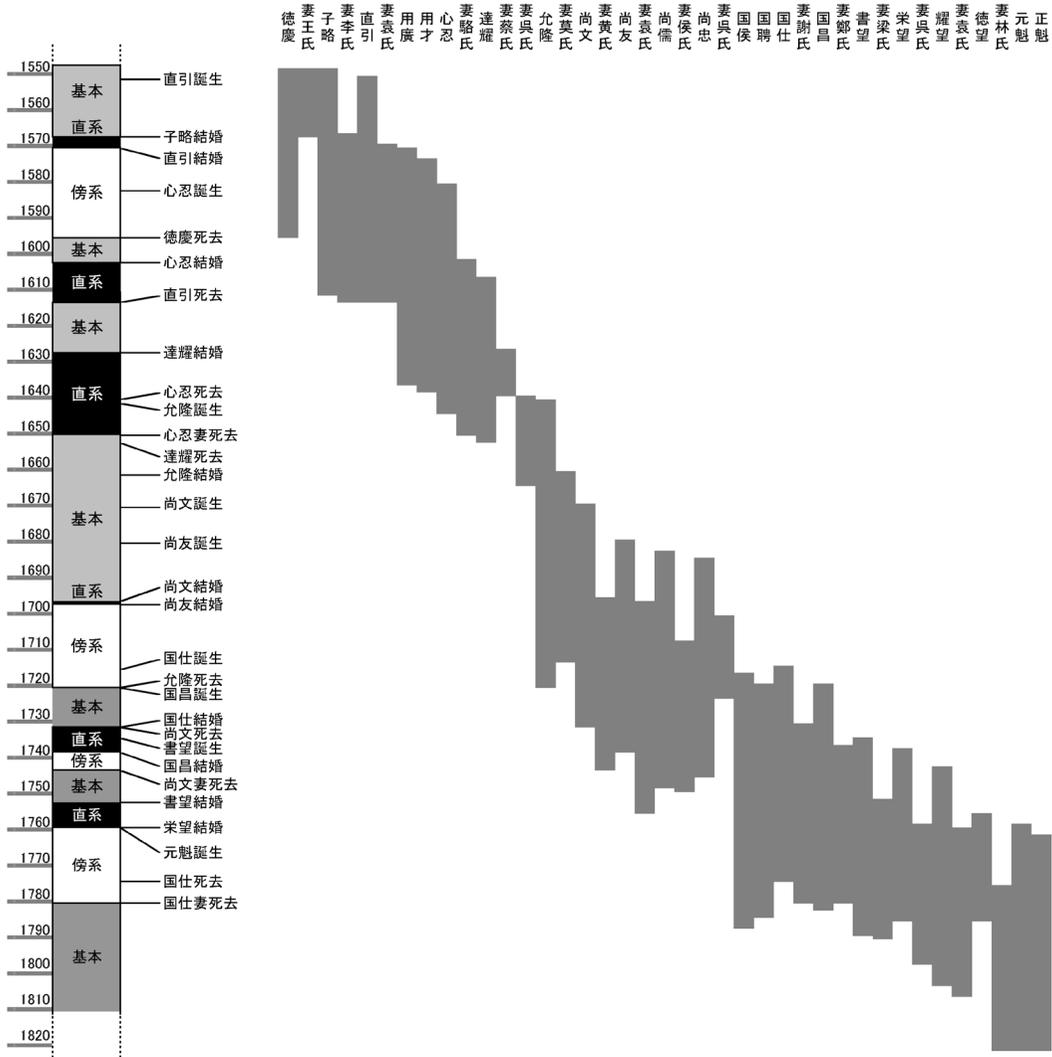
さらにこれを個人単位で細かく見てみよう。[図5]は[図4]で分析した当該家系の時期ごとの家族形態の変遷に、そこに関わった計39の個人の生存期間(妻たちについては婚入後死去するまでの期間)を重ね合わせたものである。そして、これらの個人がその生存期間のうちの一時期でも傍系型拡大家族の一員であった時期があるかどうかをチェックしてみると、[表6]を得る。すなわち、39名中の34人までは、人生の一時期(または婚入後の一時期)に傍系型拡大家族の一員であることを経験しているのである。これを比率で見れば87.2パーセントに及ぶ。

(表5) 直引一元魁の家系の家族形態割合

家族形態	年数	%
基本家族	134	51.5
直系型拡大家族	51	19.6
傍系型拡大家族	75	28.8

(表6) 直引一元魁の家系の傍系型拡大家族経験者割合

傍系体験者	34/39	87.2%
-------	-------	-------



(図5) 直引一元魁の家系の家族形態の変遷と各成員の生存期間

また、この家系の人々が260年間に形成してきた家族の人数規模を集計してみれば、[表7]のとおりとなる。すなわち、1550年当時の基本家族の3人から出発し、最大値となるのは1770年代から1780年代にかけて国仕が4人の息子たちとともに拡大傍系家族を形成していた時期である。他方、1650年代から1660年代にかけての達耀の寡婦と息子・允隆の母子家庭であった時期には、家族の規模は2名まで減少している。なお、これらの家族規模の数字には、未婚の娘たちや夭折して族譜に痕跡をとどめなかった男児が含まれていないので、実際の家族規模は若干大きくなると考えられる。[表7]中の下半の「補正值」は、各年次における未婚男子の人数を2倍にして加算した数値である。あくまでこれらは推測値ではあるが、各時期の人々がどれくらいの人数

(表7) 直引一元魁の家系の年次ごとの人数

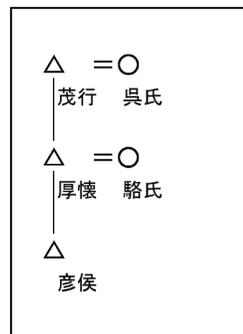
年	1550	1551	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574
人数	33	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	5	6	6	6
補正值	4	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	5	5	6	7	7	7
年	1575	1576	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599
人数	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7
補正值	9	9	9	9	9	9	9	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10
年	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624
人数	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	8	8	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
補正值	10	10	10	11	10	10	10	10	12	12	12	12	12	11	11	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
年	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649
人数	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4
補正值	8	8	8	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	6	6	4	4	4	6	6	6	6	5	5	5
年	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674
人数	4	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3
補正值	5	5	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	2	2	2	2	2	4	4	4	4
年	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699
人数	3	3	3	3	3	3	4	4	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	8	8
補正值	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	8	8	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	10
年	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724
人数	8	8	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	9	10	10	11	11	11	13	12	12	12
補正值	10	10	11	10	10	10	10	10	10	11	10	10	10	10	10	9	11	11	13	13	13	13	17	16	16
年	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749
人数	11	11	11	11	11	11	11	12	11	11	11	12	12	13	14	13	13	13	13	14	13	13	12	12	12
補正值	15	15	15	15	15	15	15	16	14	14	14	16	16	17	19	15	15	15	15	17	16	16	15	15	15
年	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774
人数	11	10	10	11	11	11	11	11	11	11	13	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
補正值	14	13	13	14	13	13	13	14	14	14	17	17	16	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
年	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799
人数	15	14	15	15	15	15	15	13	13	12	12	11	9	9	8	8	7	6	6	6	6	6	6	6	5
補正值	18	17	18	17	17	17	16	14	14	12	12	11	9	9	8	8	7	6	6	6	6	6	6	5	5
年	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814	1815	1816	1817	1818	1819	1820				
人数	5	5	5	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				
補正值	5	5	5	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				

規模の「家(チア)」単位の中で暮らしていたかを知る目安にはなるであろう。

### 3.2. 事例2：第12世・明瑞の家系

次に、同様の分析を別の家系で行ってみよう。次に取り上げるのは1793年生まれの第12世代・明瑞という人物の家系である。この家系は、W氏一族の始祖・建元の長男・乾慶の系統で、その長男・第3世・弘登、その長男・第4世・茂行、その長男・第5世・厚懐、さらにその長男・第6世・彦侯、その長男・第7世・子洪、その長男・第8世・尚友<sup>2</sup>(注4)までは宗族の中でもすべて長男の系統、すなわち宗孫の系統である。第9世の象賢は次男だが、第10世・捷科、第11世・橋播も長男であり、第12世の明瑞自身も長男である。

1590年当時、この家系の人々は第4世・茂行夫妻と息子の第5世・厚懐夫妻からなる直系型大家族の形態をなしていた。1597年には第6世の彦侯が誕生したが、彼の誕生の時点・万暦25年丁酉歳9月3日未時(西暦1597年7月22日14時)におけるその家族構成は〔図6-1〕のとおりとなる。その後、上位世代の死去により基本家族の形態となるが、彦侯の結婚によって再び直系型大家族の形態に戻る。

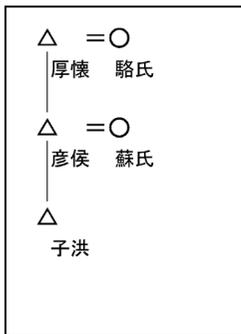


〔図6-1〕 万暦25年丁酉歳9月3日未時(西暦1597年7月22日14時)の彦侯の家族構成

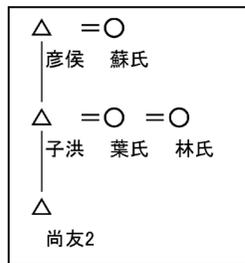
彦侯の長男、第7世・子洪が誕生した天啓7年丁卯歳7月16日未時(西暦1627年8月26日14時)時点での家族構成は[図6-2]のようであった。

その後もこの家系の家族は、上位世代の死去、下位世代の結婚によって基本家族、直系型拡大家族をサイクリカルに繰り返している。この間、順治3年丙戌歳4月3日卯時(西暦1646年5月8日午前6時)の第8世・尚友<sup>2</sup>誕生の時点における彼らの家族構成は[図6-3]のとおりであった。また、尚友<sup>2</sup>の次男である第9世・象賢が誕生した康熙37年戊寅歳7月7日卯時(西暦1699年8月12日午前6時)時点での構成は[図6-4]のとおりとなる。この間、1676年から1688年の間には、子洪夫婦のもとに息子・尚友<sup>2</sup>と尚客の2組の夫婦が含まれる傍系型拡大家族が実現されたが、子洪世代の死去によってそれは解体して基本家族に戻った。

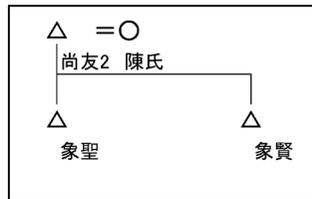
象賢の兄・象聖の結婚により2世代夫婦を含む直系型拡大家族となるが、象賢自身が結婚したのは親である尚友<sup>2</sup>らの死去の後であったので、家族形態は傍系型拡大家族へと成長することなく、ふたたび基本家族形態へと推移している。やがて、象賢夫妻には象賢が48歳、妻・梁氏38歳の時にようやく息子・捷科(第10世)の誕生に恵まれた。この時点、乾隆11年丙寅歳2月4日未時(西暦1746年2月23日午後2時)誕生の時点での家族構成は[図6-5]のとおりであった。捷科は妻・李氏と1773年に結婚して、同年中には長男の第12世・橋播を得たが、母・梁氏は1768年に、また父・象賢も1773年に死去したので、彼らの家族が直系型拡大家族の形態をなしたのは瞬間的であった。



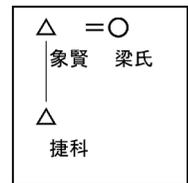
〔図6-2〕 天啓7年丁卯歳7月16日未時(西暦1627年8月26日14時)時点の子洪の家族構成



〔図6-3〕 順治3年丙戌歳4月3日卯時(西暦1646年5月8日午前6時)の尚友<sup>2</sup>の家族構成



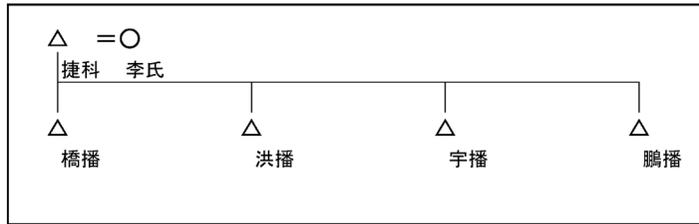
〔図6-4〕 康熙37年戊寅歳7月7日卯時(西暦1699年8月12日午前6時)時点の象賢の家族構成



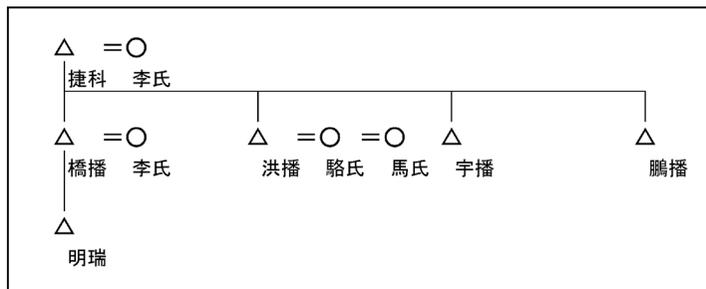
〔図6-5〕 乾隆11年丙寅歳2月4日未時(西暦1746年2月23日午後2時)の捷科の家族構成

捷科夫妻は4人の子どもに恵まれた。四男・鵬播が誕生した乾隆51年丙午歳2月12日卯時(西暦1786年3月11日午前6時)時点での家族構成は[図6-6]のようである。これら第11世の4兄弟のうち、長男・橋播と次男・洪播が結婚した時点で、彼らの家族は父親である捷科の「家(チア)」の中に複数組の息子夫婦の「房(ファン)」を包摂する傍系型拡大家族の形態となった。長男・橋播夫婦に第12世・明瑞が誕生した乾隆58年癸丑歳12月24日午時(西暦1794年1月25日午後0時)

の時点における彼らの家族の構成は、[図 6-7]に示すとおりとなる。

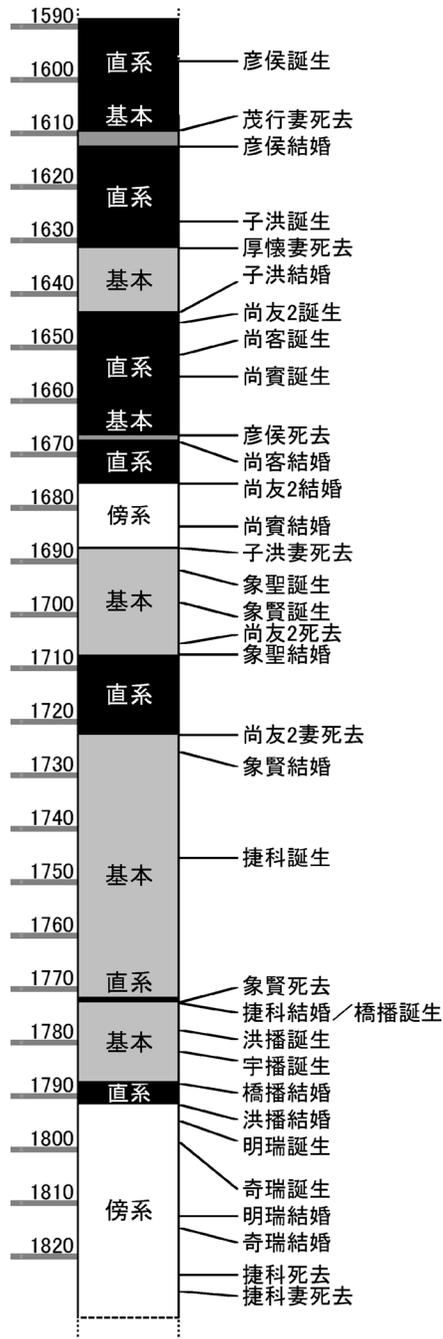


(図 6-6) 乾隆 51 年丙午歳 2 月 12 日卯時(西暦 1786 年 3 月 11 日午前 6 時)時点の鵬播の家族構成



(図 6-7) 乾隆 58 年癸丑歳 12 月 24 日午時(西暦 1794 年 1 月 25 日午後 0 時)の明瑞の家族構成

これら明瑞家系の家族形態の変遷を図示すると、[図 7]のとおりとなる。初期は直系型拡大家族をベースに基本家族との間を往復するが、1680 年ころから 10 年ほど傍系型拡大家族を形成したあと、1720 年代以降は基本家族の時期が大半を占めるようになる。しかし、1790 年ころからは傍系型拡大家族が持続している。この 240 年間について、この家系に生じた主要なイベントは[表 8]に掲げるとおりである。また、それぞれの家族形態をとっていた期間のトータルは[表 9]に集計したとおりである。すなわち、傍系型拡大家族の形態をとっていたのは 240 年間のうちの 50 年間、比率にして 20.8 パーセントということになる。



(図7) 彦侯一明瑞の家系の家族形態の変遷

(表8) 彦侯一明瑞の家系の主要家族イベント

彦侯一明瑞の家系の主要家族イベント			
茂行誕生	1541	象聖死去	1753
茂行結婚	1557	象聖妻死去	1755
茂行死去	1608	象賢誕生	1698
* 茂行妻死去	1609	象賢結婚	1724
厚懷誕生	1572	* 象賢死去	1773
厚懷結婚	1588	象賢妻死去	1768
厚懷死去	1631	捷科誕生	1746
* 厚懷妻死去	1632	捷科結婚	1773
彦侯誕生	1597	捷科死去	1824
* 彦侯結婚	1613	捷科妻死去	1827
* 彦侯死去	1667	橋播誕生	1773
彦侯妻死去	1655	* 橋播結婚	1788
子洪誕生	1627	橋播死去	1833
* 子洪結婚	1644	橋播妻死去	1830
子洪死去	1686	洪播誕生	1778
* 子洪妻死去	1688	* 洪播結婚	1792
尚友2誕生	1646	洪播死去	1833
尚友2結婚	1676	洪播妻死去	1799
尚友2死去	1706	宇播誕生	1783
* 尚友2妻死去	1723	宇播結婚	1803
尚客誕生	1652	宇播死去	1838
* 尚客結婚	1668	宇播妻死去	
尚客死去	1727	明瑞誕生	1793
尚客妻死去	1722	明瑞結婚	1813
尚賓誕生	1656	明瑞死去	1833
尚賓結婚	1684	明瑞妻死去	
尚賓死去	1723	奇瑞誕生	1797
尚賓妻死去	1718	奇瑞結婚	1815
象聖誕生	1691	奇瑞死去	1838
* 象聖結婚	1708	奇瑞妻死去	1827

\*は家族構造変化要因、斜体は推測値

(表9) 彦侯一明瑞の家系の家族形態割合

家族形態	年数	%
基本家族	102	39.2
直系型拡大家族	88	33.8
傍系型拡大家族	40	15.4





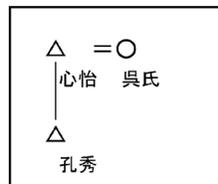
### 3.3. 事例3：第11世・超大の家系

詳細に関しては反復・重複となるので、次の第11世・超大の家系については、要点のみを簡略に見ることとする。この家系は始祖の三男・衍慶の系統に属しており、1590年の段階では衍慶の次男である第3世・心怡夫婦の基本家族であった。同家系の1590年から1830年までの240年間に生じた主要なイベントは〔表12〕に示すとおりである。また、この家系の第3世・心怡から第11世・超大に至る歴代直系男性成員の誕生時点の家族構成を図示したものが、〔図10-1〕から〔図10-10〕である。同家系の系譜の中でこれらの図のカバーする範囲を示したのが〔図12〕である。

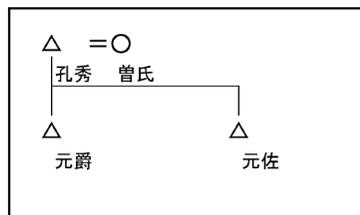
〔表12〕 心怡—超大の家系の主要家族イベント

心怡—超大の家系の主要家族イベント											
	心怡誕生	1560		元爵死去	1706		昌運誕生	1699		有徳死去	1799
	心怡結婚	1577		元爵妻死去	1709	*	昌運結婚	1717	*	有徳妻死去	1810
	心怡死去	1626		元佐誕生	1642		昌運死去	1772		廷捷誕生	1765
*	心怡妻死去	1629	*	元佐結婚	1660		昌運妻死去	1771		廷捷結婚	1784
	孔秀誕生	1612	*	元佐死去	1710		啓進誕生	1721		廷捷死去	1838
*	孔秀結婚	1628		元佐妻死去	1707	*	啓進結婚	1735		廷捷妻死去	1824
*	孔秀死去	1679		爾鳳誕生	1669		啓進死去	1783		超大誕生	1801
	孔秀妻死去	1673	*	爾鳳結婚	1686		啓進妻死去	1785	*	超大結婚	1819
	元爵誕生	1639	*	爾鳳死去	1730		有徳誕生	1737		超大死去	1838
*	元爵結婚	1655		爾鳳妻死去	1727		有徳結婚	1752		超大妻死去	1838

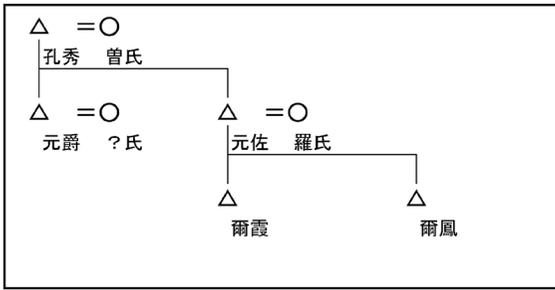
\*は家族構造変化要因、斜体は推測値



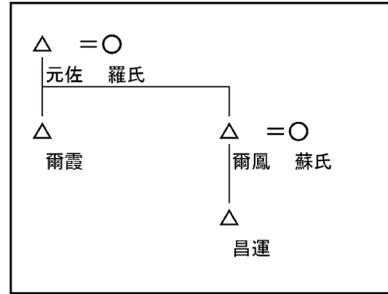
〔図10-1〕 万曆40年壬子歳5月13日子時(1612年6月11日午前0時)時点の孔秀の家族構成



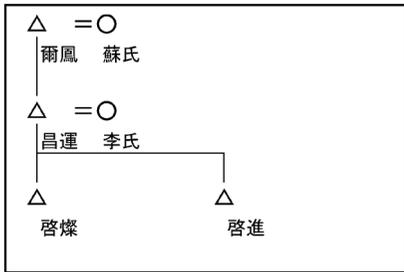
〔図10-2〕 崇禎15年壬午歳8月19日辰時(1642年9月12日午前8時)時点の元佐の家族構成



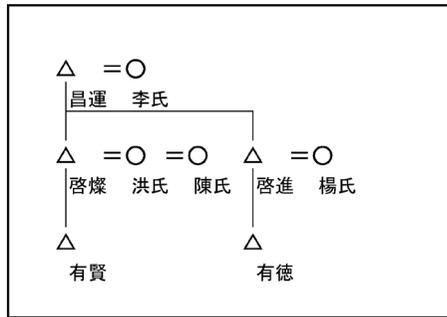
〔図 10-3〕 康熙 8 年己酉歲 8 月 16 日午時 (1669 年 9 月 10 日午後 0 時) 時点の爾鳳の家族構成



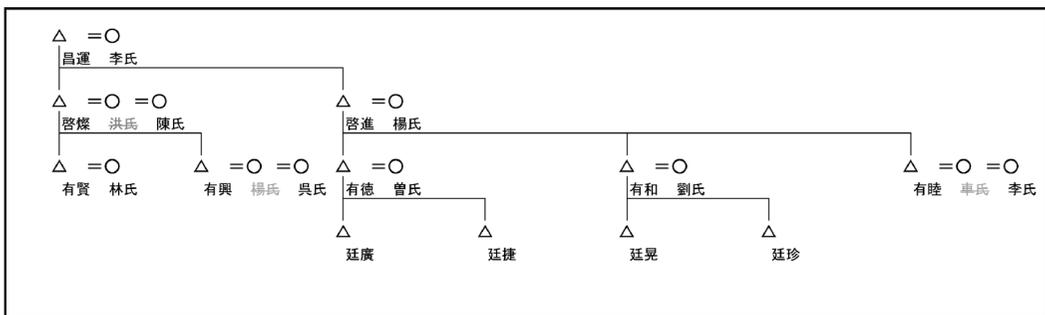
〔図 10-4〕 康熙 38 年己卯歲 12 月 1 日寅時 (1700 年 1 月 20 日午前 4 時) 時点の昌運の家族構成



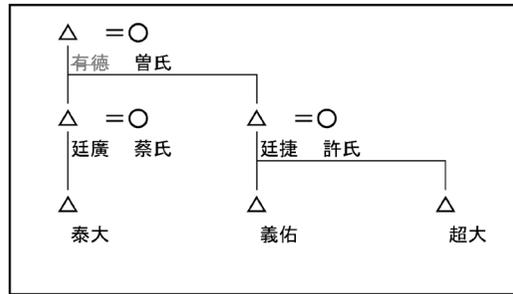
〔図 10-5〕 康熙 60 年辛丑歲 7 月 18 日申時 (1721 年 9 月 9 日午後 4 時) 時点の啓進の家族構成



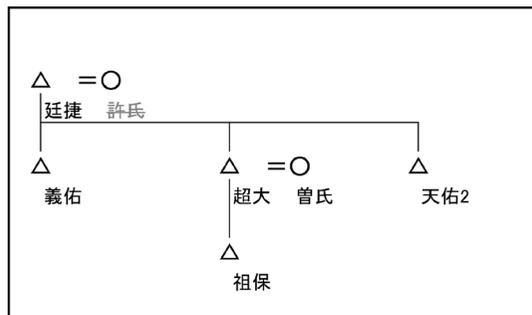
〔図 10-6〕 乾隆 2 年丁巳歲 7 月 14 日辰時 (1737 年 8 月 9 日午前 8 時) 時点の有徳の家族構成



〔図 10-7〕 乾隆 30 年乙酉歲 6 月 20 日未時 (1765 年 8 月 6 日午後 2 時) 時点の廷捷の家族構成



〔図 10-8 嘉慶 6 年辛酉歳(1801 年)時点の超大の家族構成(注 5)



〔図 10-9〕 道光 16 年丙申歳 2 月 24 日巳時(1836 年 4 月 9 日午前 10 時)時点の祖保の家族構成

さらに、上記 2 例と同様に当該期間内の家族形態の変遷を示し、それに家系のメンバーの生存期間(妻は婚入後の期間)を重ねたのが〔図 11〕である。同家系が 240 年間に各種家族形態を経験した期間のそれぞれの合計数は〔表 13〕のとおりであり、また各個人ごとに傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位の一員となった経験があるか否かをチェックした結果が〔表 14〕となる。さらに、それらの家族単位の人数規模を分析したものが〔表 15〕である。



〔表 13〕 心怡—超大の家系の家族形態割合

家族形態	年数	%
基本家族	98	40.8
直系型拡大家族	48	20.0
傍系型拡大家族	94	39.2

〔表 14〕 心怡—超大の家系の傍系型拡大家族経験者割合

傍系体験者	38/42	90.5%
-------	-------	-------

〔表 15〕 心怡—超大の家系の年次ごとの人数

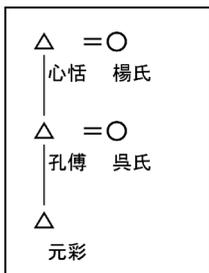
年	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
補正值	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4
年	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
人数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
補正值	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4
年	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
人数	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6
補正值	4	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6	7	6	6	6
年	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
人数	6	7	7	7	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7
補正值	6	8	8	8	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	9	8	8	8
年	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
人数	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	6	5	4	3	3	3	3
補正值	8	8	8	8	8	8	8	8	8	10	10	10	10	10	10	10	10	9	8	6	5	4	4	4	4
年	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
人数	3	3	4	4	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	4	4	4	4	5	6	6	7	8
補正值	4	4	5	5	6	6	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	6	6	6	6	7	7	6	8	10
年	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
人数	9	9	10	10	10	11	10	10	10	10	10	10	11	12	12	13	13	13	14	15	15	15	17	18	18
補正值	12	12	14	14	14	15	14	14	14	14	14	14	15	16	16	17	16	16	17	18	18	18	20	20	20
年	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
人数	20	20	20	20	20	20	19	18	17	17	17	18	19	19	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17
補正值	24	24	24	24	24	24	23	22	21	21	21	22	23	22	21	21	21	20	20	20	19	18	17	17	17
年	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
人数	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	18	19	19	19	19	19	19	17	15	15	16	15	15	15	15
補正值	19	19	19	19	21	21	21	21	21	21	20	22	22	22	23	23	23	21	19	19	20	18	18	18	18
年	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830									
人数	15	15	15	15	13	13	13	13	12	12	11	11	11	11	11	10									
補正值	18	18	18	18	16	15	15	15	14	12	11	11	11	11	11	10									

この家系の場合、1650年代まではほとんどの時期が基本家族であったが、それ以降はむしろ直系型拡大家族や傍系型拡大家族の形態をとっていた期間の方が大半を占めるようになっていく。特に1730年代半ばから70年以上にわたって傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位を維持していたところが特徴的である。全体を通してみると、240年間のうち94年間は傍系型の形態を保っており、またこの家系に属していた42人の人物のうち、38人、率にして実に90.5パーセントは、人生のどこかの期間に傍系型拡大家族単位の一員であったことになる。家族体位の人数規模では、傍系型拡大家族が形成されていた1790年代末から1800年代初頭にピークを迎えており、未婚女子の推計人口を加えた補正值では20人強の数字となっている。

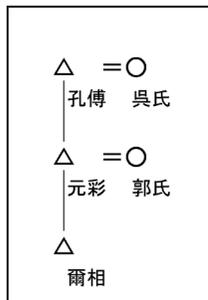
3.4. 事例 4：第 12 世・応芳の家系

以上の 3 つの家系の事例では、家族の形態(「家(チア)」)単位としての家族の構成は人々の誕生や結婚、死去にともなって常に遷移し続けるとともに、傍系型の大家族の形態もそれなりの頻度で実現されていることがわかる。単純に傍系型大家族の形態の家族単位を維持していた期間の割合を見ると、3 つの事例でそれぞれ 28.8 パーセント、20.8 パーセント、39.2 パーセントという数字になるが、家系の所属メンバーのうち傍系大家族単位の一員となった経験を有する者の割合で見れば、87.2 パーセント、63.4 パーセント、90.5 パーセントといずれも過半数を大きく超える割合となっている。これらの家系の人々にとっては、傍系型大家族は決して人生体験上疎遠な家族単位の形態ではなく、それどころか、息子たち夫婦、そこから生まれた孫たち、兄弟、兄嫁、弟嫁、男系の甥・姪、父方平行イトコらからなる傍系型大家族単位の中に包摂され、その家族関係の中で生きることは、もはや人生の常態でさえあったと推測することができよう。

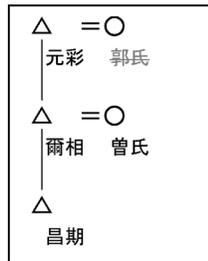
もちろん、全ての家系がこのような特徴をもっていたわけではなく、世代間間隔や息子の数などの要因によっては、傍系型大家族の形態の家族単位を形成する機会が乏しかった人々も存在した。このことを補うために、次の事例、1814 年生まれの第 12 世・応芳という人物の事例を見て行きたい。この家系は、上述の祖保の家系と同様、始祖・建元の三男・衍慶の分節に属する家系だが、衍慶の次男・心恬の系統ではなく、三男の心恬の系統である。この第 3 世・心恬の息子である第 4 世・孔傳以下、第 5 世・元彩、第 6 世・爾相、第 7 世・昌期、第 8 世・兆茂、第 9 世・有進、第 10 世・廷邦、第 11 世・輝大、そして第 12 世・応芳と続く歴代男子の誕生時点ごとの家族構成は[図 13-1]から[図 13-8]に示すとおりである。これらの家族構成が、応芳の家系全体のどの部分に対応しているかを示したのが[図 14]である。



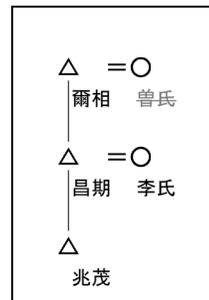
〔図 13-1〕 順治 4 年丁亥歳 10 月 2 日午時(1647 年 10 月 29 日午後 0 時)時点の元彩の家族構成



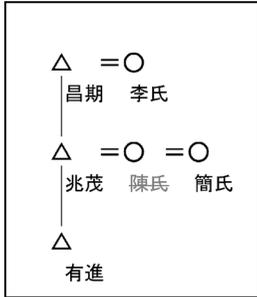
〔図 13-2〕 康熙 8 年己酉歳 10 月 12 日巳時(1669 年 11 月 5 日午前 10 時)時点の爾相の家族構成



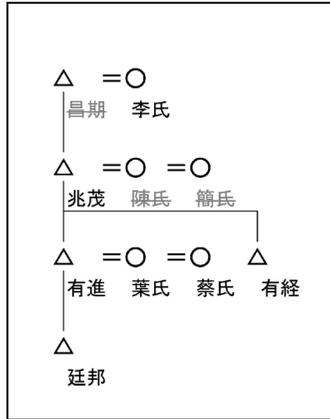
〔図 13-3〕 康熙 37 年戊寅歳 5 月 6 日未時(1698 年 6 月 13 日午後 2 時)時点の昌期の家族構成



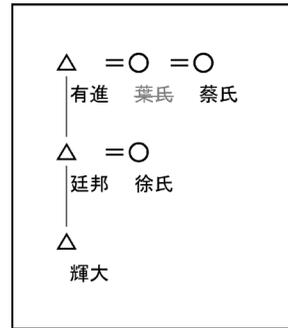
〔図 13-4〕 康熙 58 年己亥歳 3 月 14 日申時(1719 年 5 月 3 日午後 4 時)時点の兆茂の家族構成



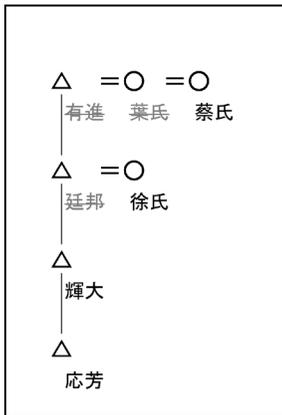
〔図 13-5〕 乾隆 9 年甲子歳 10 月 20 日午時(1744 年 11 月 23 日午後 0 時)時点の有進の家族構成



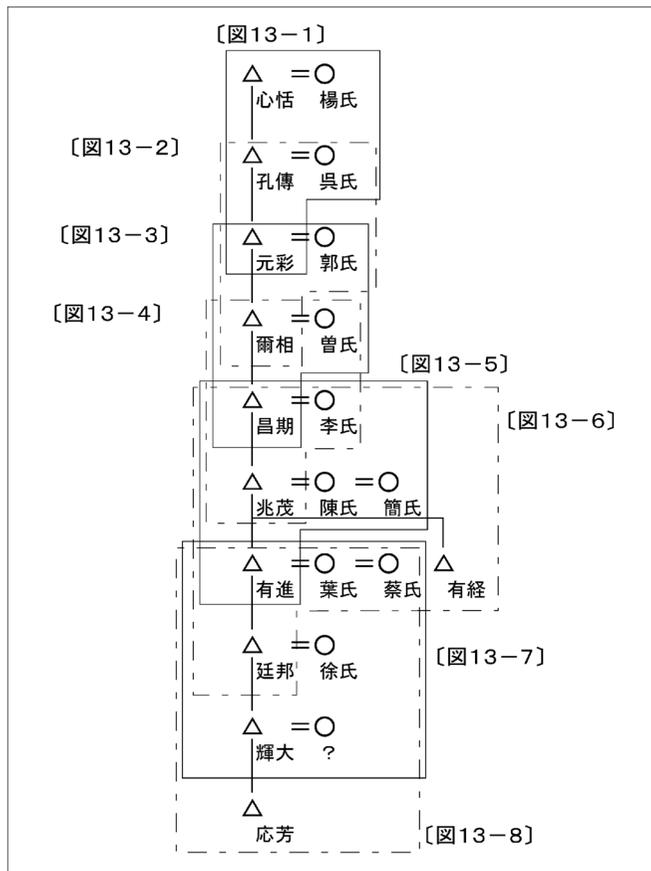
〔図 13-6〕 乾隆 29 年甲申歳 12 月 18 日子時(1765 年 1 月 9 日午前 0 時)時点の廷邦の家族構成



〔図 13-7〕 乾隆 60 年乙卯歳 1 月 11 日辰時(1795 年 1 月 31 日午前 8 時)時点の輝大の家族構成



〔図 13-8〕 嘉慶 19 年甲戌歳 9 月 10 日辰時(1814 年 10 月 22 日午前 8 時)時点の応芳の家族構成



〔図 14〕 心恬—応芳家系の諸段階一覧

応芳の家系の 240 年間の主要な出来事をまとめたのが〔表 16〕であり、またそれによって彼らの家族の形態がどのように推移したかを示しているのが〔図 15〕である。さらに、この間の各タイプの家族形態の継続期間を集計したものが〔表 17〕である。これらから明らかなように、彼らの家系では、家族形態は直系型大家族と基本家族がほぼ交互に現れており、唯一 1778 年から 1785 年までの 7 年間、傍系型大家族の形態であったのを例外とするのみである。これは同家系に生まれた男子の数が歴代少なく、各世代にわたって後継男子が単独である場合が多かったことによる。

その結果、約 240 年間の間で傍系型大家族の形態の家族単位を有していたのは 7 年間のみ、2.9 パーセントということになり、また〔表 18〕に示すようにこの期間に生きた同家系の人々 23 名中で傍系型大家族の形態を経験した者は 8 名(34.8 パーセント)のみということになる。年次ごとの家族の人数規模も〔表 19〕として示すが、子どもの数に恵まれず傍系型の大家族を形成する期間が少なかった同家系では、家族の人数規模も最大値 9 人(1765 年)と小さめである。

〔表 16〕 心恬一応芳の家系の主要家族イベント

心恬一応芳の家系の主要家族イベント											
	心恬誕生	1592	*	元彩死去	1708		兆茂誕生	1719		有経死去	1788
	心恬結婚	1610		元彩妻死去	1693	*	兆茂結婚	1736		有経妻死去	1785
*	心恬死去	1651		爾相誕生	1669		兆茂死去	1782		廷邦誕生	1764
	心恬妻死去	1650	*	爾相結婚	1684	*	兆茂妻死去	1743		廷邦結婚	1780
	孔傳誕生	1617	*	爾相死去	1731		有進誕生	1744		廷邦死去	1811
*	孔傳結婚	1634		爾相妻死去	1717		有進結婚	1758		廷邦妻死去	1832
*	孔傳死去	1680		昌期誕生	1698		有進死去	1802		応芳誕生	1814
	孔傳妻死去	1669	*	昌期結婚	1716		有進妻死去	1765		応芳結婚	1831
	元彩誕生	1647		昌期死去	1755		有経誕生	1761		応芳死去	1838
*	元彩結婚	1664		昌期妻死去	1764	*	有経結婚	1778		応芳妻死去	1838

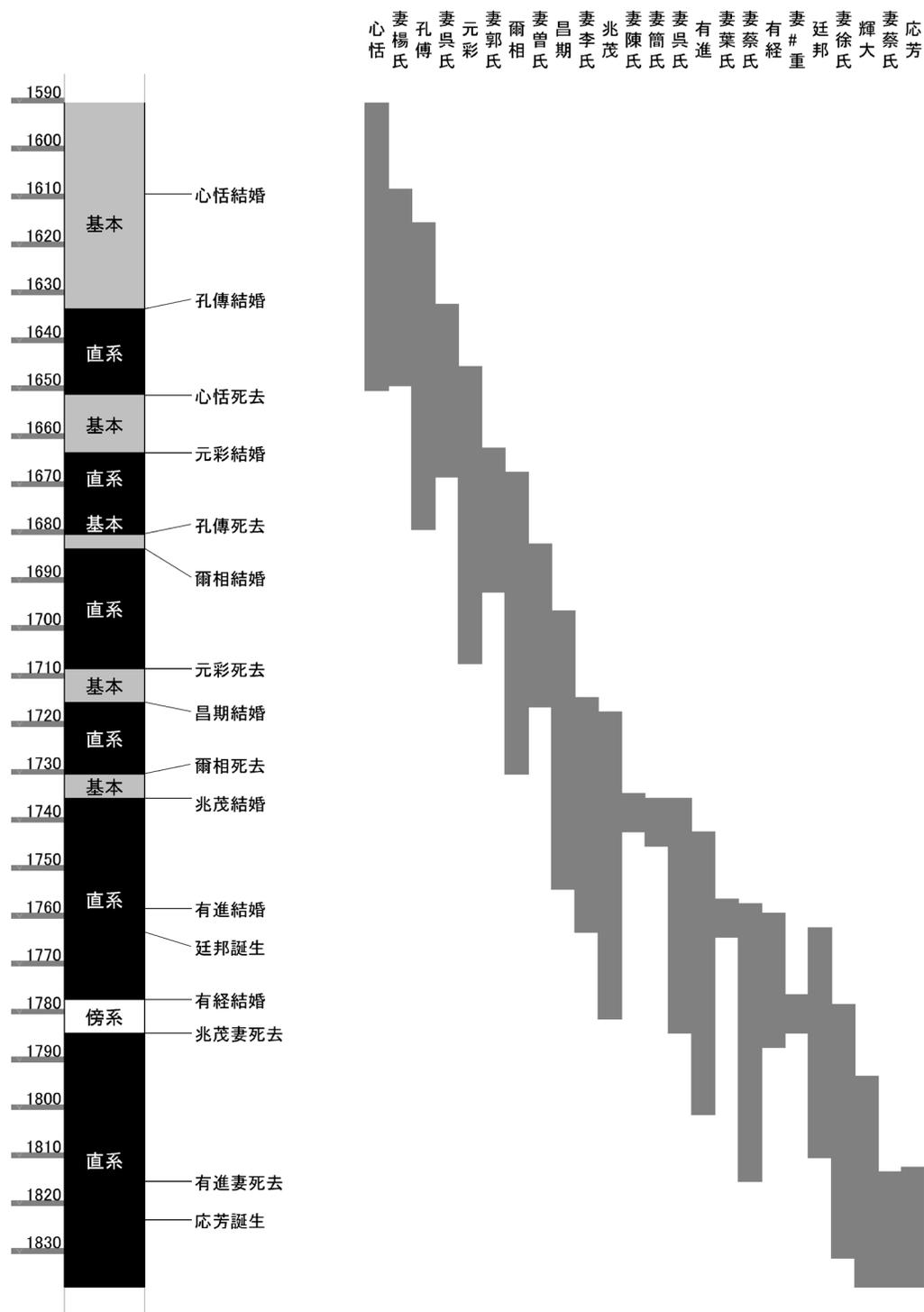
\*は家族構造変化要因、斜体は推測値

〔表 17〕 心恬一応芳の家系の家族形態割合

家族形態	年数	%
基本家族	69	29.0
直系型大家族	162	68.1
傍系型大家族	7	2.9

〔表 18〕 心恬一応芳の家系の傍系型大家族経験者割合

傍系体験者	8 / 23	34.8%
-------	--------	-------



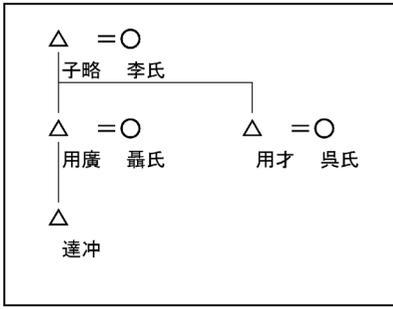
〔図 15〕 心恬—應芳の家系の変遷

(表 19) 心恬一応芳の家系の年次ごとの人数

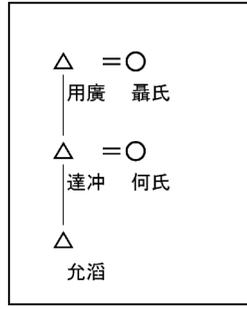
年	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
人数	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
補正值	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
年	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
人数	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
補正值	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4
年	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
人数	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4
補正值	4	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5
年	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
人数	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	4	4	4
補正值	4	4	4	4	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4
年	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
人数	4	4	4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
補正值	4	4	4	4	3	3	3	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4
年	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
人数	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	4	6	6	6
補正值	4	5	4	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	5	6	6	6
年	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
人数	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	6	6	7	7	7	8
補正值	6	6	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	6	7	6	8	8	8	10
年	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
人数	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	8	8	8	7	7	7	5	5	5	4
補正值	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	8	9	8	8	7	7	7	5	5	5	4
年	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
人数	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4
補正值	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	6
年	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830									
人数	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
補正值	7	6	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4										

3.5. 事例 5：第 12 世・文錦の家系

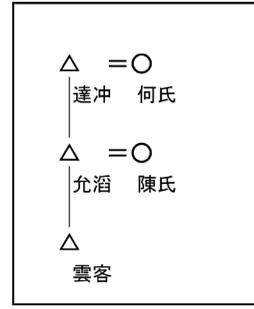
最後の家系事例は、1812 年生まれの第 12 世代・文錦の家系である。これは始祖・建元の四男・徳慶の分節に属し、その長男・第 3 世・子略の子孫の系統である。第 4 世・用廣、第 5 世・達冲、第 6 世・允滔、第 7 世・雲客、第 8 世・国梁、第 9 世・殿賓、第 10 世・悦進、第 11 世・成賓、第 12 世・文錦と続く各世代の誕生時点での「家(チア)」単位の構成を示すと〔図 16-1〕から〔図 16-9〕のとおりとなる。家系全体の系譜概略の中におけるこれらの図の時点の位置づけは、〔図 17〕に示すとおりである。そして、この家系の人々が 1590 年から 1830 年の間に形成した家族(「家(チア)」単位)の形態の変遷と、家系に所属する全ての個人の生存期間(女性は婚入後の期間)を示せば、〔図 18〕のとおりとなる。



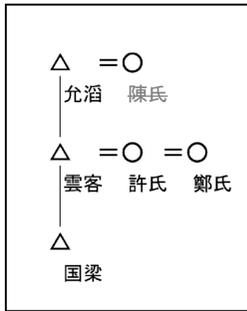
〔図 16-1〕 万曆 28 年庚子歳 11 月 5 日巳時(1600 年 12 月 10 日午前 10 時)時点の達冲の家族構成



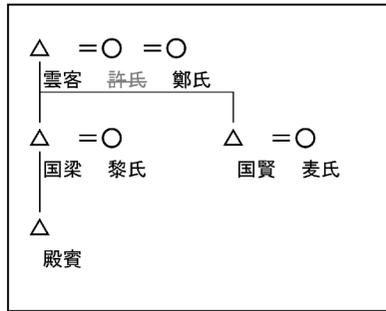
〔図 16-2〕 崇禎 2 年己巳歳 3 月 12 日午時(1629 年 4 月 5 日午後 0 時)時点の允滔の家族構成



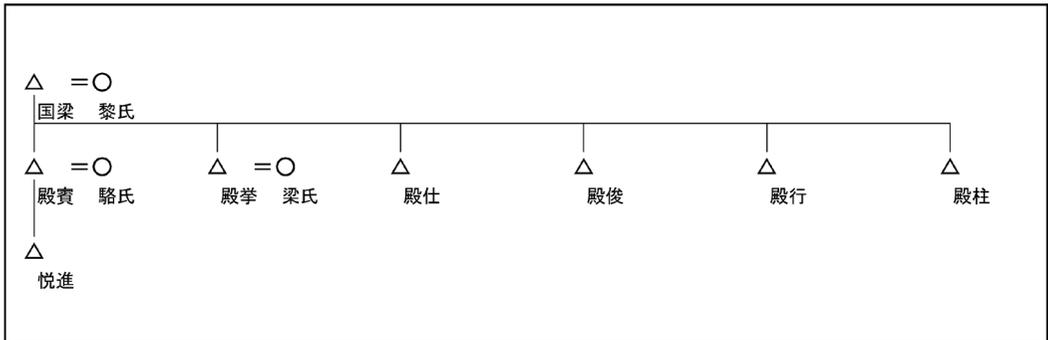
〔図 16-3〕 順治 10 年癸巳歳 2 月 15 日子時(1653 年 3 月 14 日午前 0 時)時点の雲客の家族構成



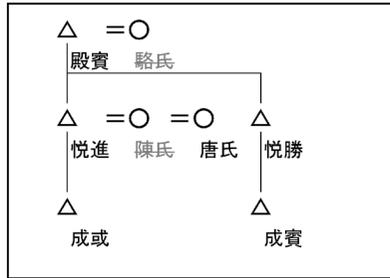
〔図 16-4〕 康熙 20 年辛酉歳 3 月 23 日卯時(1681 年 5 月 10 日午前 6 時)時点の国梁の家族構成



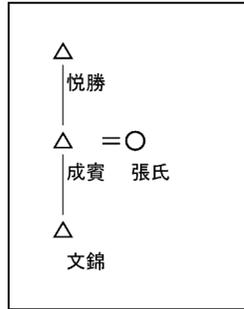
〔図 16-5〕 康熙 45 年丙戌歳 10 月 21 日午時(1706 年 11 月 25 日午後 0 時)時点の殿寶の家族構成



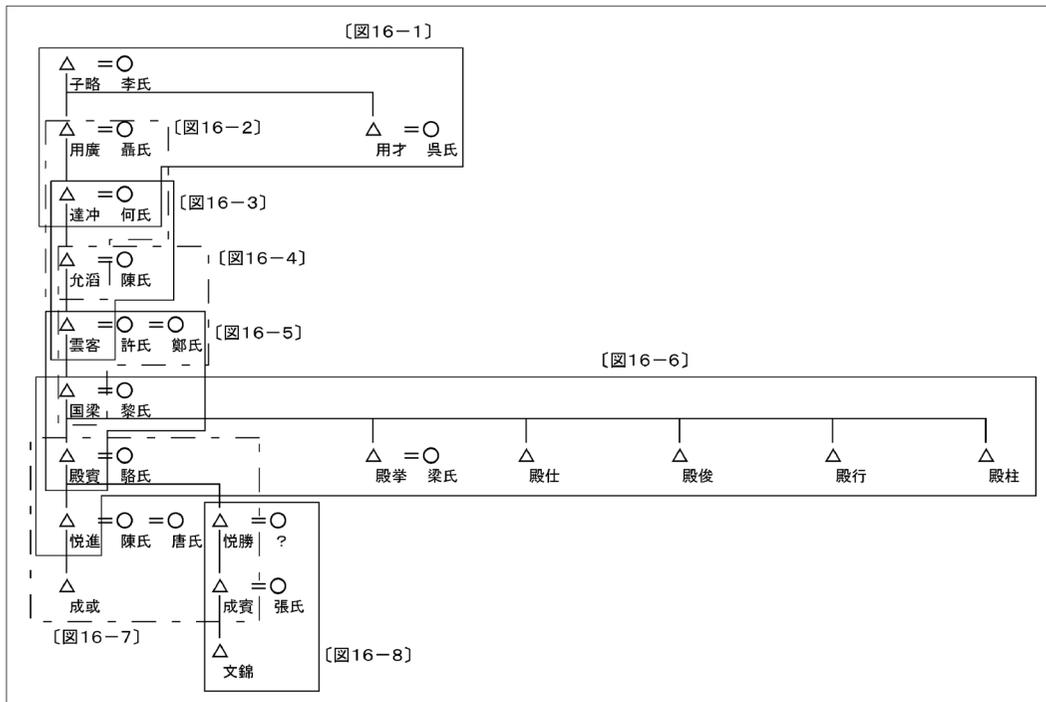
〔図 16-6〕 雍正 3 年乙巳歳 1 月 3 日午時(1725 年 2 月 15 日午後 0 時)時点の悦進の家族構成



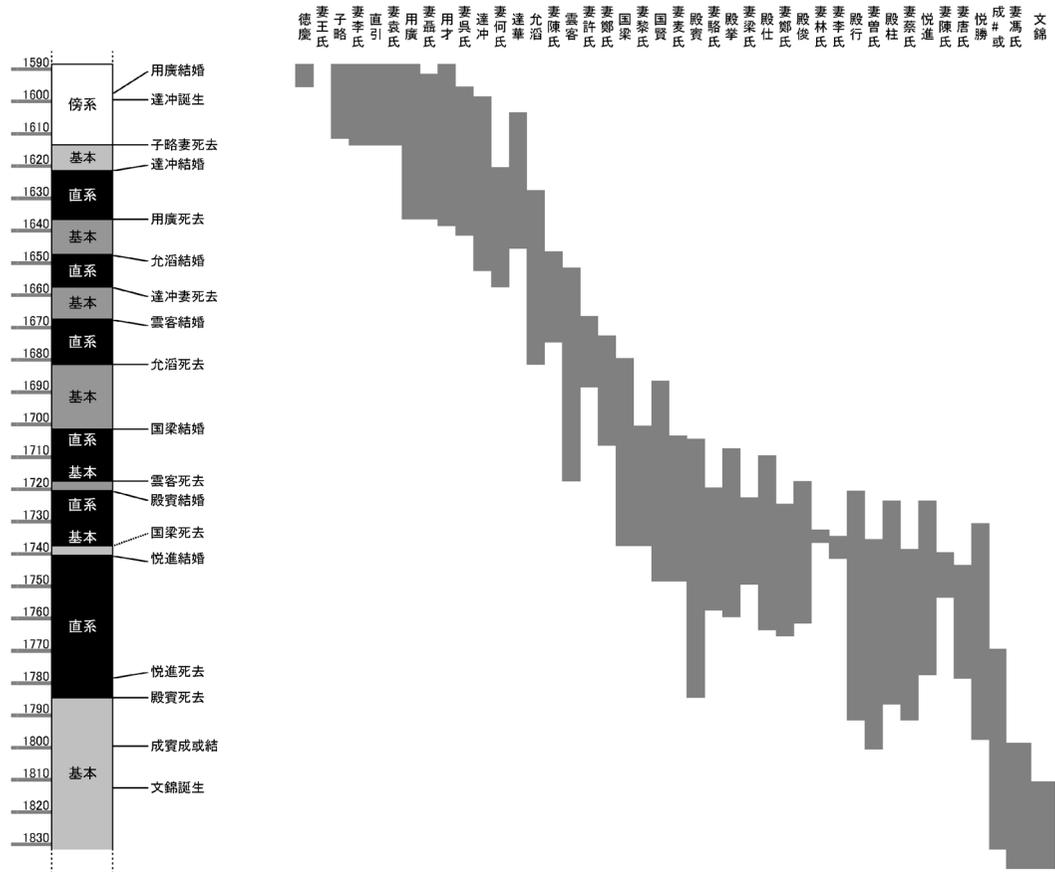
〔図 16-7〕 乾隆 38 年癸巳歲(1773 年)の成賓の家族構成(注 5)



〔図 16-8〕 嘉慶 17 年壬申歲 2 月 8 日 丑時 (1812 年 3 月 20 日 午前 2 時) 時点の文錦の家族構成



〔図 17〕 用廣一文錦家系の諸段階一覽



(図 18) 用廣一文錦家系の家系の家族形態の変遷と各成員の生存期間

この家系の 240 年間の主要イベントは〔表 20〕に掲げるとおりであり、また対象期間のうち基本家族、直系型拡大家族、傍系型拡大家族を構成していた期間のそれぞれの累計を示したのが〔表 21〕である。この家系に属する全ての個人について、生涯のうちに傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位の構成員であった者の割合は、23 名中の 11 名で 47.8 パーセントとなる(〔表 22〕)。また、年次ごとの彼らの「家(チア)」単位の人数規模を算出すると〔表 23〕のようになる。この家系の場合、傍系型拡大家族の形態を形成していたのは最初の 25 年ほどの期間のみであり、その後は直系型拡大家族と基本家族の形態を繰り返している。ゆえに第 6 世代以降の家系成員については傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位の所属した経験をもつ者は皆無である。これは、同家系が全般的に男子の出生に恵まれなかったことと、各祖先が比較的短命で世代サイクルが短かったことによるものと考えられる。

ちなみに、本節で分析対象とした 5 つの家系について、そのそれぞれの直系成員の没年齢の平均値と、実子の数の平均値を算出すると、〔表 24〕が得られる。傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」

単位を形成していた期間が長く、成員がそれに所属した経験をもつ割合も高かった元魁、明瑞、超大の3家系では、いずれも没年例の平均が60歳を超えており、また実子の数も2.0以上なのに対し、傍系型拡大家族の形態の「家(チア)」単位の形成が少なかった応芳、文錦の2家系は、没年例の平均が55歳前後と低く、また実子の数の平均も1.5に満たなかったことがわかる。

〔表 20〕 用廣—文錦の家系の主要家族イベント

心恬—応芳の家系の主要家族イベント											
	用廣誕生	1572	*	允滔結婚	1648	*	国梁死去	1738		悦進妻死去	1754
*	用廣結婚	1593	*	允滔死去	1682		国梁妻死去	1738		成賓誕生	1773
*	用廣死去	1637		允滔妻死去	1675		殿賓誕生	1706		成賓結婚	1800
	用廣妻死去	1637		雲客誕生	1653	*	殿賓結婚	1721		成賓死去	1837
	達冲誕生	1600	*	雲客結婚	1668	*	殿賓死去	1785		成賓妻死去	1838
*	達冲結婚	1622	*	雲客死去	1718		殿賓妻死去	1758		文錦誕生	1812
	達冲死去	1653		雲客妻死去	1689		悦進誕生	1725		文錦結婚	
*	達冲妻死去	1658		国梁誕生	1681	*	悦進結婚	1741		文錦死去	1838
	允滔誕生	1629	*	国梁結婚	1702		悦進死去	1778		文錦妻死去	

\*は家族構造変化要因、斜体は推測値

〔表 21〕 用廣—文錦の家系の家族形態割合

家族形態	年数	%
基本家族	134	51.5
直系型拡大家族	51	19.6
傍系型拡大家族	75	28.8

〔表 22〕 用廣—文錦の家系の傍系型拡大家族経験者割合

傍系体験者	11 / 23	47.8%
-------	---------	-------

(表 23) 用廣一文錦の家系の年次ごとの人数

年	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
人数	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9
補正值	9	9	9	10	10	10	10	10	10	9	10	10	10	10	10	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11
年	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
人数	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	6	6
補正值	8	8	8	8	8	8	8	9	8	7	7	7	7	7	9	9	9	9	9	9	9	9	9	7	7
年	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
人数	5	5	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3
補正值	4	4	4	5	5	5	5	4	5	4	4	4	4	4	6	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4
年	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
人数	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	4	4	5	5	4	4	4	4	4	4	5	5
補正值	4	4	4	5	4	4	4	4	4	5	5	4	4	4	4	6	6	5	5	5	5	5	5	7	7
年	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
人数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	6	7	7	6	7	7	8	8	8	8
補正值	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	6	7	8	8	7	9	9	11	11	11	11
年	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
人数	8	8	8	8	8	8	9	10	10	11	13	14	14	14	14	14	14	15	15	16	16	17	18	17	15
補正值	11	11	11	11	12	12	13	14	14	15	17	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	20	21	19	17
年	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
人数	16	17	17	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	15	15	14	14	13	13
補正值	18	19	18	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	16	16	15	15	14	14	14
年	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
人数	12	12	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9
補正值	13	13	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	12	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10
年	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
人数	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
補正值	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8
年	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	1827	1828	1829	1830									
人数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7									
補正值	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7									

(表 24) 5 家系における平均年齢と平均実子数

家系	平均寿命	平均実子数
直引一元魁家系	61.8	2.4
茂行一明瑞家系	61.8	2.0
心怡一超大家系	66.1	2.0
心恬一応芳家系	55.0	1.2
用廣一文錦家系	55.9	1.4

#### 4. 家族概念とその諸形態をめぐる考察

以上においては、香港新界沙田の W 氏一族の族譜を資料とし、同宗族全体における家族形態の経年変化の概略を跡づけるとともに、個別の家系 5 つを抽出してその具体的変化を詳細に検討してきた。その中で特に着目したのは、基本家族、直系型拡大家族、傍系型拡大家族という家族形態についての基礎的な 3 つのタイプの比率とその経年的変化という問題であり、その中でも特に傍系型拡大家族の形態の家族単位が他の形態に比べて実際にどの程度希少な存在頻度であったのかという点である。

このような問題設定を本節の中心課題として据えたのは、言うまでもなくこれまでの研究史の

中での上記家族形態についての議論を踏まえてのことである。前近代から近代初期の中国社会について、その家族形態に関する古典的な議論の中では、「同居同財」と呼ばれる傍系型の父系大家族の存在が強調される傾向にあった。またその一方で、そのような形態の家族は富裕層などに限られた希少な存在であったとする見解も多く示されてきた。中国社会の家族形態に関する議論については、拙著[瀬川 2004 : 98-116]で既に総括しているのでここでは繰り返さないが、「同居同財」を少数派ないし例外的存在と見る見解の多くは、世帯統計などの資料に依拠し、一時点での世帯単位の規模やそこに含まれる主要な家族構成のタイプに基づいた主張であることが多かった。だが、このような方法での「家族」に関する議論は、以下の2点において問題を孕む性格のものと言わなければならない。

第1に、一時点における家族の諸形態間の多寡を見るだけでは、対象とする社会集団の中における各家族形態の存在比率を正しく評価することにはならないという技術的、方法論的な問題点である。例えば、本稿末尾に付録として掲載した[資料2]に示すとおり、分析対象とした期間の大半において、傍系型大家族の形態は10パーセント程度から最大でも全体の3分の1程度であったし、全期間を通した平均で見ても12.7パーセントほどであり、すなわち10家族のうちそのような大家族は1家族程度の比率であった。しかし、このような特定時点での共時的・横断的な比率の把握ではなく、家系ごとに特定個人に注目してその人生サイクルの中で人々が経験する家族形態の種類を追って行くと、一転してそのような実人生のどこかの段階で傍系型大家族の形態を経ていた者が意外に多数に上ることが明らかとなる。本稿の第2章で検討した5つの家系のケースでは、その数値は87.2パーセント、63.4パーセント、90.5パーセント、34.8パーセント、47.8パーセントであった。

ただ、こうした個別ケースの検証のみでは、たまたまこれらの5つの事例が傍系型大家族の体験率の比較的高い人々だけをピックアップしている可能性が排除できない。そこで、これと同じ手法によってW氏族の族譜に含まれる全ての個人について、その人生のどこかの時点(女性については婚入以降死去するまでの間のどこかの時点)で傍系型大家族の形態の家族単位の構成員であった者の比率を求めると、[表25]を得ることができる。拙稿[瀬川 2019 : 10-11]で述べたように、W氏族譜の記載データには、生没年等のデモグラフィック・データを完備し、その内的な整合性のチェックによって有効性が確認済みであるデータ(「確認済みデータ」)と、それらに脱漏や矛盾のあるデータ(「不完全データ」)が含まれる。総数881件の「確認済みデータ」のみを用いて算出した傍系型大家族形態の経験者の比率は53.0パーセントとなり、また「不完全データ」を含めた1,099件全体で求めたその数字は45.8パーセントとなる。ここから、前項で分析した5家系の具体事例は決して例外的なもので

(表 25) 傍系型大家族形態の経験者の比率

	確認済みデータのみ	不完全データ含む
	人数	人数
男性	276	280
女性	191	223
合計	467	503
総数	881	1099
比率	53.0	45.8

はなく、宗族全体規模で見ても人生経験の一部に傍系型拡大家族形態の「家(チア)」単位への所属を経験した個人は少数・例外とは言えないことが裏付けられる。

家族形態に関する議論の問題点の第2の点は、「家族」の定義そのものに関わるより根本的な問題点である。家族の形態を類型化する場合に、何をもちってその基準とするかは「家族」についての文化的な定義と切り離すことができない。G. P. マードックの家族の定義[Murdock 1949: 1]にも明らかなように、文化人類学を含む西洋の人文社会科学の中で形成されてきた家族に関する諸類型も、突き詰めて考えれば西洋社会における「家族」についての文化的イメージと不可分なものである。そこでは、「家族」の範囲確定に共住、共食、財産の共同、夫婦生活、子育てなどの生活の共同、あるいはドメスティックな活動領域の共有という機能的要素が密接に結びついている。その結果、家族を親族紐帯や婚姻連帯で結びついた他の近親者の中から弁別して範囲確定しようとする都度ごとに、そのような機能的要素への言及が繰り返されることとなる。

学術用語として「家族(family)」を明確に「世帯(household)」から区別して使用することを主張する研究者たちも(注7)、こと「家族」の定義に際しては、「世帯」の形成根拠を提供したり、あるいは「世帯」の主要機能の遂行単位となったりするという性格をもって、「家族」を「家族」以外の近縁者から弁別しようとする傾向がある。ただし、これはドメスティックな生活領域、あるいは親密圏と結びついた存在として「家族」をイメージする西洋社会の中の文化的慣例の所産である。その慣例的論理に従えば、結婚した兄の「家族」と自分の「家族」が別々の単位であり、決して同一のものではないと見なされるが、それはそれらが社会通念的(文化的)に、家計管理や夫婦生活や子育てなどを含むドメスティックな領域として、それぞれ独立した単位をなすのが常態であると見なされるからに他ならない。そこでは、「家族」はドメスティックな生活領域を共有するメンバーたちにその資格を与える根拠そのものであると同時に、そうした親密な生活領域を共有することを通じて、「家族」ははじめてその外縁の範囲確定を獲得するのであり、そこには一種の循環論法が存在している。

ただし、これはあくまで西洋社会の「家族」の定義の話である。西洋社会以外の社会において、「家族」にあたる社会生活上の中核的イン・グループが同じように定義され観念されているとは限らない。そうである保証は全くない。少なくとも中国社会における「家族」は、西洋の文化的刻印の鮮やかな上述のような「家族」観念とは顕著に異なった性格のものであるように思われる。なぜならば、そこには共住や家計の共同や親密圏の形成など、社会的機能の充足が「家族」の範囲確定の基準として参画する余地は皆無であるからである。

西洋社会の伝統の刻印を受けた「家族」の定義とその形態分類においては、「傍系型拡大家族」とそれ以外の家族類型との境界を画しているものは生活の共同性の範囲であり、既婚の兄弟姉妹たちが生活上の共同関係を維持している場合にはその類型の家族として分類されることになる。逆に、存命中の兄弟姉妹がたくさんいてそれぞれに結婚している場合であっても、皆それぞれに別の生活単位として暮らしている場合には、それは決して「傍系型拡大家族」とは見なされない。その類型の家族形態として見なし得るか否かのメルクマールは、あくまで生活上の機能的要素のう

ちにある。だが、中国的な家族の定義の中では、生活が共同され親密圏が形成されているかどうかは、せいぜい二次的な要素に過ぎず、それらが家族単位の範囲確定に対し中心的な要素として関与することはあり得ないのである。

したがって、同居の如何や家計の共同の如何を問わず、存命中の親や兄弟がいれば彼らは当然のこととして彼らの家族なのであり、彼らが所属している家族単位は傍系型拡大家族の形態をなすことになる。またもし上位世代が既に死去した状態であったり、他に男兄弟がいない状態であったりすれば、彼らが家族として認識する人々の範囲はわれわれが基本家族や直系型拡大家族と呼ぶものの形態をとることになる。つまり、中国的な家族の定義に従う限り、それが「傍系型拡大家族」であるかそれ以外の形のものであるかは、存命中の既婚兄弟がいるかどうかという、シブリング数ならびにその婚姻ステータスによってのみ自動的に決定される単位なのであって、そこに生活上の機能要素が入り込む余地はない。

この点において、中国的な傍系型拡大家族を「同居同財」と呼ぶのは一種極めてミスリーディングな名称であると言わざるを得ない。「同居同財」であろうが、「分居分財」であろうが、またいずれかの程度でそれらの中間的な状態にあらうが、そうしたことは関わりなしに中国的な傍系型拡大家族は1つの家族単位として存在し得るのであり、中国社会における傍系型拡大家族の普遍性は、そのように認識された彼らの家族単位についての類型として論じられる必要がある。つまるところ、「同居同財」の有無や共同性の多寡など、もっぱら生活機能の面のみから中国の家族を論じようとした論者たちは、実はひとつも中国の家族について論じてはいなかったことになると言えるであろう。

このように考えるとき、一見無味乾燥で生活の実態のかけらも描述しているようには見えない族譜資料を用いて「家族」について論じようとする本稿の無謀な試みには、実は重要な意義が隠されていたことが明らかになる。族員の生没と婚姻状態や息子の数など、極めて表面的で定型的な情報しか書き込まれていないように見える族譜ではあるが、それは中国的な「家族」の定義に基づいた家族の成員権確定と、その外縁的範囲の画定とを、毎世代毎世代ただひたすらに淡々と繰り返したものに他ならず、それこそが族譜の本質的な性格なのである。

そして最も重要な点は、そのような族譜という資料を手にとって見るときに、そこからは「家族」の姿が見えない、「家族」の実態を映した資料とは言えない、と感じるわれわれ自身のものの見方について、今一度あらためて客観的にとらえ直す契機が得られるという一点にある。すなわちそれは、そうした見方がわれわれの中に潜在する「家族」についてのイメージ、つまりドメスティックで親密な圏域をアプリアリにその中核的要素として据えたイメージに由来するものであることを、われわれに想起させてくれるのである。

族譜が記録し続けたのは、具体的個人の間関係がどのような父系出自関係や婚姻ステータスによって秩序づけられているかについての配置図であり、それらの個人間に生活の共同があったか、財産の共有があったか、愛情や反目があったかなどではない。族譜が体現するところの系譜・婚姻関係の秩序が、そうした実生活上の権利義務関係や行動規範の根拠として機能することは

あったかもしれないが、その逆ではなかった。すなわち、そうした実生活上の機能面によって系譜・婚姻関係の秩序の側が左右されることはなかったのであり、それら両者は認識論上同一次元に属する事象とは見なされていなかったのである。

## 5. おわりに

本稿では、筆者が別稿[瀬川 2019]において行った香港新界沙田W氏一族の族譜の分析を踏まえつつ、族譜に描かれた個々の祖先の人生の軌跡について、逐一具体的にたどってみる試みを行った。すなわち、個々の成員が生前に所属していた家族単位の形態と、その経年変化に関わる詳細な分析を行った。そこからは、それぞれの家系における家族形態の多様な変遷の過程が復元できるとともに、平均すれば半数以上の人々が、生前のどこかの時点で傍系型大家族形態の「家(チア)」単位の一員であった経験をもつことが、数値として確認できた。それと同時に、族員の生没と婚姻状態や息子の数など、極めて表面的で定型的情報しか書き込まれていないように見える族譜ではあるが、そこからかなり具体的に家族のかたちが把握できること、また、族譜には生活実態についての情報が乏しく、共住や家系の共同などの機能面がそぎ落とされた記録ではあるものの、それが逆に中国的意味での「家族」の成員権やその外縁的範囲を明確に示す性格のものであることも明らかとなった。このように、本稿では族譜が単なる地域史や著名人の研究における補助資料としての価値にとどまることなく、歴史人類学的な家族研究の資料として、貴重な利用価値をもつものであることが提示できた。

### 注

- (注 1) コーエンが彼の研究中で用いているのは、「joint family」(合同家族)という用語であるが、形態的には本稿で言う「傍系型大家族」と同じ、複数世代に既婚の夫婦を含み、かつ同一世代に複数の夫婦を含むものを指している。なお、コーエンが同研究で行っているのは共住や家計の共同を伴う実際の生活単位の形態分類であり、本稿が行う近親カテゴリーとしての家族単位の分類ではないが、方法論的にはコーエンの指摘する経年的な追跡的分析の手法は後者に対しても同様に有効であると考えられる。
- (注 2) 実際の居住集団の人口に近づけるためには、さらにこれに夭折した男児女児の数を加える必要があるが、それらは基本的に族譜では言及されていない。
- (注 3) 達耀の寡婦であり允隆の母である蔡氏の没年は記載が欠落しているが、この時点までには死去したものと推測した。
- (注 4) 始祖の四男・徳慶の分節の第7世にも尚友という同名の人物がいるので、区別するためにここでは「尚友2」と呼ぶ。なお、これは世代や出生年、没年、所属分節から判断して、同一人物の養出入による重複のケースではあり得ない。
- (注 5) この超大に関しては、誕生した日時情報が欠落している。
- (注 6) この成賓に関しても、誕生した日時情報が欠落している。
- (注 7) 「世帯(household)」は居住集団、すなわち共住、生計の共同など客観的に観察可能な指標によって規定できるものであり、他方の「家族(family)」は近親者の範囲画定に関する当事者の認識の問題であるとして、両者は明確に区別し得るものだとする考え方は、社会人類学でも教科書を通じて教えられる「常識」の一部となっている。例えば、[Keesing 1981: 267]を見よ。

## 引用文献

陳其南

- 2006 「房と伝統的中国家族制度：西洋人類学における中国家族研究の再検討」、瀬川昌久・西澤治彦編『中国文化人類学リーディングス』171-223 頁、東京：風響社。

瀬川昌久

- 2019 「連続性への希求—香港新界沙田 W 氏族譜の内容分析を通してみる系譜意識」、『東北アジア研究』23 号、1-40 頁。

瀬川昌久

- 2004 『中国社会の人類学—親族・家族からの展望』、京都：世界思想社。

Cohen, Myron

- 1976 *House United, House Divided: The Chinese Family in Taiwan*. New York: Columbia University Press.

Freedman, Maurice

- 1958 *Lineage Organization in Southeastern China*. London: Athlone.

Keesing, Roger M.

- 1981 *Cultural Anthropology A Contemporary Perspective, Second Edition*. New York: Holt, Rinehart and Winston.

Murdock, George P.

- 1949 *Social Structure*. New York: Macmillan.

	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501
基本	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
直系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526
基本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傍系	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551
基本	0	0	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
直系	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
傍系	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576
基本	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
直系	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3
傍系	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601
基本	2	2	3	3	3	3	3	4	5	5	5	5
直系	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
傍系	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	5	5	6	6	7	7	7	8	9	9	9	9
	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626
基本	9	11	11	10	10	8	8	7	7	7	7	7
直系	3	1	1	2	2	4	4	5	5	5	5	5
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651
基本	7	7	6	7	6	6	7	6	5	4	3	2
直系	5	5	6	5	6	6	5	6	7	8	9	10
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676
基本	8	8	9	8	8	7	8	8	8	8	6	4
直系	4	4	3	4	4	5	4	4	4	4	6	7
傍系	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
計	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701
基本	8	8	11	14	14	14	14	13	13	16	16	15
直系	5	5	5	5	5	5	5	7	6	6	6	7
傍系	3	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1
計	16	16	18	20	20	20	20	21	21	23	23	23
	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726
基本	8	6	5	5	6	6	7	12	12	16	17	17
直系	11	12	13	13	12	12	13	12	12	8	8	8
傍系	3	3	3	3	3	3	2	1	1	3	3	3
計	22	21	21	21	21	21	22	25	25	27	28	28
	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751
基本	18	16	15	15	16	17	18	18	21	20	19	25
直系	6	6	7	9	8	8	8	8	8	9	10	9
傍系	8	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	6
計	32	31	31	32	32	33	34	34	37	37	37	40
	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776
基本	40	39	41	41	41	40	38	37	34	35	34	33
直系	9	13	13	13	13	14	16	17	21	20	23	23
傍系	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7
計	57	59	61	61	61	61	61	61	62	62	63	63
	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801
基本	51	52	51	49	55	55	57	54	53	50	51	50
直系	16	17	18	19	18	18	19	22	22	22	21	20
傍系	12	11	12	14	12	12	11	11	12	14	15	16
計	79	80	81	82	85	85	87	87	87	86	87	86
	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826
基本	61	66	64	64	62	65	65	66	62	61	60	58
直系	23	23	24	24	23	23	23	22	23	23	24	26
傍系	11	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
計	95	98	97	97	94	96	96	96	93	92	92	92

(資料 1) W 氏一族の 1490 ~ 1830 年の各形態の家族単位の例数

	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514
	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564
	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	4
	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6
	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589
	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4	4	3	3
	3	3	3	3	3	2	2	0	0	0	0	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5
	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
	6	5	5	5	5	5	6	6	7	7	7	6	6
	3	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	4
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11
	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
	7	5	5	6	6	6	7	6	5	5	5	6	6
	5	7	7	6	6	6	5	6	7	7	7	6	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
	4	3	4	3	4	4	4	5	6	6	6	7	8
	8	8	7	8	7	7	7	6	4	4	4	3	4
	0	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1
	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13
	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
	4	4	4	6	7	7	9	8	7	6	7	6	8
	7	6	6	6	5	5	3	4	5	6	5	4	5
	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	4	3
	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	16
	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
	15	15	15	13	13	12	11	12	10	11	9	8	8
	8	8	8	9	9	10	11	10	10	9	11	12	12
	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	24	24	24	24	24	24	24	24	22	22	22	22	22
	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
	17	18	19	16	17	17	17	16	16	14	14	14	20
	8	7	6	7	6	6	4	5	4	6	5	5	5
	3	3	3	3	3	3	5	5	6	6	7	8	7
	28	28	28	26	26	26	26	26	26	26	26	27	32
	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
	25	23	23	25	32	36	36	38	36	35	35	37	40
	9	11	10	12	10	10	10	10	11	12	12	10	9
	7	7	8	8	7	7	7	6	7	7	7	8	8
	41	41	41	45	49	53	53	54	54	54	54	55	57
	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
	32	33	32	31	38	41	39	40	41	45	47	50	48
	24	23	23	23	24	24	26	25	23	22	21	17	16
	7	8	9	9	8	8	8	8	9	10	10	12	13
	63	64	64	63	70	73	73	73	73	77	78	79	77
	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
	52	57	53	56	56	54	54	54	59	61	60	63	62
	19	21	23	21	23	25	25	25	24	25	26	25	24
	16	14	14	14	13	13	12	12	11	10	10	10	10
	87	92	90	91	92	92	91	91	94	96	96	98	96
	1827	1828	1829	1830	1490 ~ 1830 総計								
	60	63	65	61	4700								
	28	27	25	27	2442								
	7	8	8	8	1115								
	95	98	98	96	8768								

	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	
基本	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526	
基本	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
傍系	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551	
基本	0.0	0.0	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	
傍系	100.0	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	
	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576	
基本	50.0	50.0	50.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	
直系	50.0	50.0	50.0	66.7	66.7	66.7	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	
	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	
基本	40.0	40.0	50.0	50.0	42.9	42.9	42.9	50.0	55.6	55.6	55.6	55.6	
直系	40.0	40.0	33.3	33.3	42.9	42.9	42.9	37.5	33.3	33.3	33.3	33.3	
傍系	20.0	20.0	16.7	16.7	14.3	14.3	14.3	12.5	11.1	11.1	11.1	11.1	
	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	
基本	75.0	91.7	91.7	83.3	83.3	66.7	66.7	58.3	58.3	58.3	58.3	58.3	
直系	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	33.3	33.3	41.7	41.7	41.7	41.7	41.7	
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	
基本	58.3	58.3	50.0	58.3	50.0	50.0	58.3	50.0	41.7	33.3	25.0	16.7	
直系	41.7	41.7	50.0	41.7	50.0	50.0	41.7	50.0	58.3	66.7	75.0	83.3	
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	
基本	61.5	61.5	69.2	61.5	61.5	53.8	61.5	61.5	61.5	61.5	46.2	30.8	
直系	30.8	30.8	23.1	30.8	30.8	38.5	30.8	30.8	30.8	30.8	46.2	53.8	
傍系	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4	
	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	
基本	50.0	50.0	61.1	70.0	70.0	70.0	70.0	61.9	61.9	69.6	69.6	65.2	
直系	31.3	31.3	27.8	25.0	25.0	25.0	25.0	33.3	28.6	26.1	26.1	30.4	
傍系	18.8	18.8	11.1	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	9.5	4.3	4.3	4.3	
	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	
基本	36.4	28.6	23.8	23.8	28.6	28.6	31.8	48.0	48.0	59.3	60.7	60.7	
直系	50.0	57.1	61.9	61.9	57.1	57.1	59.1	48.0	48.0	29.6	28.6	28.6	
傍系	13.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	9.1	4.0	4.0	11.1	10.7	10.7	
	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	
基本	56.3	51.6	48.4	46.9	50.0	51.5	52.9	52.9	56.8	54.1	51.4	62.5	
直系	18.8	19.4	22.6	28.1	25.0	24.2	23.5	23.5	21.6	24.3	27.0	22.5	
傍系	25.0	29.0	29.0	25.0	25.0	24.2	23.5	23.5	21.6	21.6	21.6	15.0	
	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	
基本	70.2	66.1	67.2	67.2	67.2	65.6	62.3	60.7	54.8	56.5	54.0	52.4	
直系	15.8	22.0	21.3	21.3	21.3	23.0	26.2	27.9	33.9	32.3	36.5	36.5	
傍系	14.0	11.9	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.3	11.3	9.5	11.1	
	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	
基本	64.6	65.0	63.0	59.8	64.7	64.7	65.5	62.1	60.9	58.1	58.6	58.1	
直系	20.3	21.3	22.2	23.2	21.2	21.2	21.8	25.3	25.3	25.6	24.1	23.3	
傍系	15.2	13.8	14.8	17.1	14.1	14.1	12.6	12.6	13.8	16.3	17.2	18.6	
	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	
基本	64.2	67.3	66.0	66.0	66.0	67.7	67.7	68.8	66.7	66.3	65.2	63.0	
直系	24.2	23.5	24.7	24.7	24.5	24.0	24.0	22.9	24.7	25.0	26.1	28.3	
傍系	11.6	9.2	9.3	9.3	9.6	8.3	8.3	8.3	8.6	8.7	8.7	8.7	

(資料2) W 氏一族の 1490 ~ 1830 年の家族単位の形態比率

	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564
	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	66.7	66.7
	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	33.3	33.3
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589
	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	40.0	40.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	60.0
	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
	60.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	54.5	54.5	63.6	63.6	63.6	54.5	54.5
	30.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	36.4	36.4	27.3	27.3	27.3	36.4	36.4
	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
	58.3	41.7	41.7	50.0	50.0	50.0	58.3	50.0	41.7	41.7	41.7	50.0	50.0
	41.7	58.3	58.3	50.0	50.0	50.0	41.7	50.0	58.3	58.3	58.3	50.0	50.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
	33.3	25.0	33.3	25.0	33.3	33.3	33.3	41.7	50.0	50.0	50.0	58.3	61.5
	66.7	66.7	58.3	66.7	58.3	58.3	58.3	50.0	33.3	33.3	33.3	25.0	30.8
	0.0	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7	7.7
	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
	30.8	30.8	30.8	42.9	50.0	50.0	64.3	57.1	50.0	42.9	50.0	42.9	50.0
	53.8	46.2	46.2	42.9	35.7	35.7	21.4	28.6	35.7	42.9	35.7	28.6	31.3
	15.4	23.1	23.1	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	18.8
	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
	62.5	62.5	62.5	54.2	54.2	50.0	45.8	50.0	45.5	50.0	40.9	36.4	36.4
	33.3	33.3	33.3	37.5	37.5	41.7	45.8	41.7	45.5	40.9	50.0	54.5	54.5
	4.2	4.2	4.2	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
	60.7	64.3	67.9	61.5	65.4	65.4	65.4	61.5	61.5	53.8	53.8	51.9	62.5
	28.6	25.0	21.4	26.9	23.1	23.1	15.4	19.2	15.4	23.1	19.2	18.5	15.6
	10.7	10.7	10.7	11.5	11.5	11.5	19.2	19.2	23.1	23.1	26.9	29.6	21.9
	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
	61.0	56.1	56.1	55.6	65.3	67.9	67.9	70.4	66.7	64.8	64.8	67.3	70.2
	22.0	26.8	24.4	26.7	20.4	18.9	18.9	18.5	20.4	22.2	22.2	18.2	15.8
	17.1	17.1	19.5	17.8	14.3	13.2	13.2	11.1	13.0	13.0	13.0	14.5	14.0
	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
	50.8	51.6	50.0	49.2	54.3	56.2	53.4	54.8	56.2	58.4	60.3	63.3	62.3
	38.1	35.9	35.9	36.5	34.3	32.9	35.6	34.2	31.5	28.6	26.9	21.5	20.8
	11.1	12.5	14.1	14.3	11.4	11.0	11.0	11.0	12.3	13.0	12.8	15.2	16.9
	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
	59.8	62.0	58.9	61.5	60.9	58.7	59.3	59.3	62.8	63.5	62.5	64.3	64.6
	21.8	22.8	25.6	23.1	25.0	27.2	27.5	27.5	25.5	26.0	27.1	25.5	25.0
	18.4	15.2	15.6	15.4	14.1	14.1	13.2	13.2	11.7	10.4	10.4	10.2	10.4
	1827	1828	1829	1830	1490 ~ 1830 総計								
	63.2	64.3	66.3	63.5									
	29.5	27.6	25.5	28.1									
	7.4	8.2	8.2	8.3									

	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501
基本	2	2	3	3	4	5	5	5	5	5	5	5
直系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	2	3	3	4	5	5	5	5	5	5	5
	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526
基本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傍系	8	9	9	9	10	10	10	10	10	10	11	11
計	8	9	9	9	10	10	10	10	10	10	11	11
	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551
基本	0	0	5	5	5	5	2	2	2	3	3	3
直系	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4	4
傍系	15	15	9	9	9	9	10	10	10	11	11	11
計	15	15	14	14	14	14	16	16	16	18	18	18
	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576
基本	7	7	7	3	3	3	3	3	3	3	3	3
直系	12	12	12	17	16	16	12	13	14	14	14	14
傍系	0	0	0	0	0	0	5	6	6	6	7	7
計	19	19	19	20	19	19	20	22	23	23	24	24
	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601
基本	5	5	6	6	4	4	4	7	8	8	8	8
直系	8	8	8	8	12	12	12	13	13	13	13	13
傍系	8	8	8	9	9	9	9	6	6	6	7	7
計	21	21	22	23	25	25	25	26	27	27	28	28
	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626
基本	20	26	27	24	24	19	20	17	17	18	19	19
直系	12	4	4	8	8	16	16	20	20	20	20	20
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	32	30	31	32	32	35	36	37	37	38	39	39
	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651
基本	21	21	19	22	19	19	23	19	17	13	10	7
直系	22	22	27	22	26	26	20	24	28	33	37	40
傍系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43	43	46	44	45	45	43	43	45	46	47	47
	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676
基本	24	25	28	25	27	24	27	28	28	29	22	15
直系	17	17	14	18	18	21	19	19	18	19	29	31
傍系	6	7	7	7	8	8	8	8	8	7	7	14
計	47	49	49	50	53	53	54	55	54	55	58	60
	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701
基本	24	26	32	41	41	41	41	37	38	45	45	41
直系	26	27	27	27	26	26	27	33	28	29	29	32
傍系	24	24	17	8	8	8	8	7	16	8	8	8
計	74	77	76	76	75	75	76	77	82	82	82	81
	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726
基本	18	14	11	12	19	19	15	32	33	42	41	42
直系	53	57	61	62	61	61	73	69	65	44	45	45
傍系	25	26	28	30	28	27	24	9	14	24	26	27
計	96	97	100	104	108	107	112	110	112	110	112	114
	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751
基本	49	45	41	41	44	49	52	52	51	49	44	58
直系	26	26	30	37	31	31	31	30	30	34	39	38
傍系	75	83	86	79	85	85	85	86	88	93	91	79
計	150	154	157	157	160	165	168	168	169	176	174	175
	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776
基本	95	89	91	93	92	89	87	85	78	82	82	80
直系	45	60	57	57	58	63	71	76	97	93	104	103
傍系	87	75	77	78	79	80	82	83	83	84	75	82
計	227	224	225	228	229	232	240	244	258	259	261	265
	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801
基本	123	125	120	112	125	124	123	110	105	97	99	98
直系	74	77	80	85	81	81	86	101	100	93	90	85
傍系	79	72	79	94	84	83	78	84	94	108	111	120
計	276	274	279	291	290	288	287	295	299	298	300	303
	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826
基本	138	151	145	147	147	153	156	159	153	150	142	136
直系	97	99	105	107	105	104	102	100	105	105	109	120
傍系	92	72	75	76	75	64	65	65	65	64	63	65
計	327	322	325	330	327	321	323	324	323	319	314	321

〔資料3〕 W 氏一族の 1490～1830 年の各形態の家族単位の属していた者の人数



## 年次ごとの各家族形態に所属する人数の割合

	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501
基本	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526
基本	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
傍系	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551
基本	0.0	0.0	35.7	35.7	35.7	35.7	12.5	12.5	12.5	16.7	16.7	16.7
直系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	22.2	22.2	22.2
傍系	100.0	100.0	64.3	64.3	64.3	64.3	62.5	62.5	62.5	61.1	61.1	61.1
	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576
基本	36.8	36.8	36.8	15.0	15.8	15.8	15.0	13.6	13.0	13.0	12.5	12.5
直系	63.2	63.2	63.2	85.0	84.2	84.2	60.0	59.1	60.9	60.9	58.3	58.3
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	27.3	26.1	26.1	29.2	29.2
	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601
基本	23.8	23.8	27.3	26.1	16.0	16.0	16.0	26.9	29.6	29.6	28.6	28.6
直系	38.1	38.1	36.4	34.8	48.0	48.0	48.0	50.0	48.1	48.1	46.4	46.4
傍系	38.1	38.1	36.4	39.1	36.0	36.0	36.0	23.1	22.2	22.2	25.0	25.0
	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626
基本	62.5	86.7	87.1	75.0	75.0	54.3	55.6	45.9	45.9	47.4	48.7	48.7
直系	37.5	13.3	12.9	25.0	25.0	45.7	44.4	54.1	54.1	52.6	51.3	51.3
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651
基本	48.8	48.8	41.3	50.0	42.2	42.2	53.5	44.2	37.8	28.3	21.3	14.9
直系	51.2	51.2	58.7	50.0	57.8	57.8	46.5	55.8	62.2	71.7	78.7	85.1
傍系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676
基本	51.1	51.0	57.1	50.0	50.9	45.3	50.0	50.9	51.9	52.7	37.9	25.0
直系	36.2	34.7	28.6	36.0	34.0	39.6	35.2	34.5	33.3	34.5	50.0	51.7
傍系	12.8	14.3	14.3	14.0	15.1	15.1	14.8	14.5	14.8	12.7	12.1	23.3
	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701
基本	32.4	33.8	42.1	53.9	54.7	54.7	53.9	48.1	46.3	54.9	54.9	50.6
直系	35.1	35.1	35.5	35.5	34.7	34.7	35.5	42.9	34.1	35.4	35.4	39.5
傍系	32.4	31.2	22.4	10.5	10.7	10.7	10.5	9.1	19.5	9.8	9.8	9.9
	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726
基本	18.8	14.4	11.0	11.5	17.6	17.8	13.4	29.1	29.5	38.2	36.6	36.8
直系	55.2	58.8	61.0	59.6	56.5	57.0	65.2	62.7	58.0	40.0	40.2	39.5
傍系	26.0	26.8	28.0	28.8	25.9	25.2	21.4	8.2	12.5	21.8	23.2	23.7
	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751
基本	32.7	29.2	26.1	26.1	27.5	29.7	31.0	31.0	30.2	27.8	25.3	33.1
直系	17.3	16.9	19.1	23.6	19.4	18.8	18.5	17.9	17.8	19.3	22.4	21.7
傍系	50.0	53.9	54.8	50.3	53.1	51.5	50.6	51.2	52.1	52.8	52.3	45.1
	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776
基本	41.9	39.7	40.4	40.8	40.2	38.4	36.3	34.8	30.2	31.7	31.4	30.2
直系	19.8	26.8	25.3	25.0	25.3	27.2	29.6	31.1	37.6	35.9	39.8	38.9
傍系	38.3	33.5	34.2	34.2	34.5	34.5	34.2	34.0	32.2	32.4	28.7	30.9
	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801
基本	44.6	45.6	43.0	38.5	43.1	43.1	42.9	37.3	35.1	32.6	33.0	32.3
直系	26.8	28.1	28.7	29.2	27.9	28.1	30.0	34.2	33.4	31.2	30.0	28.1
傍系	28.6	26.3	28.3	32.3	29.0	28.8	27.2	28.5	31.4	36.2	37.0	39.6
	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826
基本	42.2	46.9	44.6	44.5	45.0	47.7	48.3	49.1	47.4	47.0	45.2	42.4
直系	29.7	30.7	32.3	32.4	32.1	32.4	31.6	30.9	32.5	32.9	34.7	37.4
傍系	28.1	22.4	23.1	23.0	22.9	19.9	20.1	20.1	20.1	20.1	20.1	20.2

(資料4) W 氏一族の 1490 ~ 1830 年の各家族形態に属していた者の人数比率



	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	
未婚女子数	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	
合計人口	3	3	5	5	6	8	8	8	8	8	8	8	

	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526	
未婚女子数	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3	3	
合計人口	10	12	12	12	14	14	14	14	14	14	14	14	

	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551	
未婚女子数	1	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	4	
合計人口	16	17	16	16	16	16	18	18	18	22	22	22	

	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576	
未婚女子数	2	2	2	1	1	1	0	2	3	3	4	4	
合計人口	21	21	21	21	20	20	20	24	26	26	28	28	

	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	
未婚女子数	4	4	4	3	2	2	2	2	2	2	3	3	
合計人口	25	25	26	26	27	27	27	28	29	29	31	31	

	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	
未婚女子数	6	6	7	6	6	4	5	4	4	5	5	5	
合計人口	38	36	38	38	38	39	41	41	41	43	44	44	

	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	
未婚女子数	10	10	11	11	10	10	11	11	11	10	9	8	
合計人口	53	53	57	55	55	55	54	54	56	56	56	55	

	1665	1666	1667	1668	1669	1670	1671	1672	1673	1674	1675	1676	
未婚女子数	11	13	14	12	16	15	17	18	18	20	19	16	
合計人口	58	62	63	62	69	68	71	73	72	75	77	76	

	1690	1691	1692	1693	1694	1695	1696	1697	1698	1699	1700	1701	
未婚女子数	18	21	21	22	22	22	23	21	22	23	23	22	
合計人口	92	98	97	98	97	97	99	98	104	105	105	103	

	1715	1716	1717	1718	1719	1720	1721	1722	1723	1724	1725	1726	
未婚女子数	21	21	21	22	24	24	25	27	26	27	29	30	
合計人口	117	118	121	126	132	131	137	137	138	137	141	144	

	1740	1741	1742	1743	1744	1745	1746	1747	1748	1749	1750	1751	
未婚女子数	41	40	38	35	40	41	48	49	46	49	49	52	
合計人口	191	194	195	192	200	206	216	217	215	225	223	227	

	1765	1766	1767	1768	1769	1770	1771	1772	1773	1774	1775	1776	
未婚女子数	53	51	48	52	53	54	57	58	60	60	61	62	
合計人口	280	275	273	280	282	286	297	302	318	319	322	327	

	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	
未婚女子数	64	63	62	60	61	62	62	64	68	66	65	67	
合計人口	340	337	341	351	351	350	349	359	367	364	365	370	

	1815	1816	1817	1818	1819	1820	1821	1822	1823	1824	1825	1826	
未婚女子数	88	87	92	99	99	98	99	100	102	102	99	101	
合計人口	415	409	417	429	426	419	422	424	425	421	413	422	

(資料5) 未婚女子の推定数を加えた W 氏一族の年次別人口

	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514
	3	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
	8	6	6	6	6	6	6	6	8	8	8	10	10

	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539
	4	4	4	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1
	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564
	5	5	5	5	5	4	4	4	5	5	5	3	3
	22	22	22	22	22	22	22	22	24	24	24	21	21

	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589
	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	5	5
	31	30	30	30	28	27	27	25	25	25	25	25	23

	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614
	5	4	4	5	5	5	6	6	6	6	7	6	6
	36	36	36	38	38	38	41	40	40	40	43	43	42

	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639
	6	4	5	6	6	7	8	8	8	8	9	9	10
	45	45	47	48	48	49	50	52	54	54	55	53	55

	1652	1653	1654	1655	1656	1657	1658	1659	1660	1661	1662	1663	1664
	9	9	8	7	8	8	9	11	11	11	12	12	11
	55	59	54	54	54	54	56	59	60	58	61	59	58

	1677	1678	1679	1680	1681	1682	1683	1684	1685	1686	1687	1688	1689
	16	15	14	14	18	18	18	17	16	19	21	19	19
	76	76	76	75	82	81	79	81	81	89	92	93	94

	1702	1703	1704	1705	1706	1707	1708	1709	1710	1711	1712	1713	1714
	20	20	21	20	21	22	21	21	22	23	21	21	21
	102	104	106	109	112	114	113	115	115	116	115	116	116

	1727	1728	1729	1730	1731	1732	1733	1734	1735	1736	1737	1738	1739
	34	34	39	40	40	41	42	41	41	43	43	42	42
	150	147	150	152	152	155	162	163	165	174	184	185	186

	1752	1753	1754	1755	1756	1757	1758	1759	1760	1761	1762	1763	1764
	52	51	51	50	51	53	55	57	58	57	56	54	51
	231	230	229	230	234	251	262	260	270	274	275	280	281

	1777	1778	1779	1780	1781	1782	1783	1784	1785	1786	1787	1788	1789
	63	60	58	56	56	59	61	62	64	62	65	60	61
	337	336	335	334	330	335	341	343	341	338	341	338	337

	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811	1812	1813	1814
	72	69	70	69	69	69	67	69	69	71	79	81	87
	375	374	375	371	374	377	376	381	382	384	401	404	409

	1827	1828	1829	1830
	97	96	98	101
	419	406	409	418